

文部科学省委託事業

新時代に対応した高等学校改革推進事業 (普通科改革支援事業)

第2年次 実施報告書



令和6年3月

長崎県立松浦高等学校

(巻頭言)

新しい普通科＝地域科学科とは？

長崎県立松浦高等学校 校長 舟越 裕

表題は、あえて昨年度と同じものにしました。本研究指定事業において本校が設定した3つ研究計画を推進していくことは当然ですが、その前提として「普通科とは？」「新しい普通科とは？」「地域科学科とは？」という問いと、それに基づく理念構築がなければ、形式的にカリキュラムを整え、地域との連携体制を構築するだけに終わりかねません。現状の普通科が抱える課題を乗り越え、多様な生徒一人一人の可能性及び能力を最大限伸長するための学びを充実させるには、課題意識と向き合い続ける必要があります。

昨年度の冊子には、本校の課題を以下のようにまとめています。

短い準備期間の中で新学科を立ち上げたため、中学校や地域へ説明不足を原因の1つとする生徒募集での苦戦という課題があります。さらに、「地域科学科とは何か」、「従来の普通科との違いは何か」という点について、校内での目線合わせが十分にできていないまま新学科がスタートしたため、新学科の軸、つまり研究の軸が不明確となってしまったという課題があります。

この課題の解決が、2年目にどの程度進んでいるか、ここで示しておきます。

一点目の本学科の新しいチャレンジに関する中学校や地域への浸透については、コーディネーターや教務・広報部を中心に、本校の教育活動を積極的に広報してきた結果、2年連続で志願者を増やしていることから、徐々に浸透してきていると考えています。ただし、他の高等学校も魅力化・特色化に取り組んでいます。その中で本校としては、日々の授業改善や地域課題探究学習「まつナビ」の充実に加えて、今年度から取り組んでいる「まつうら高校応援団」や「松高学び場」による「地域に開かれた学び」の創出を含めて、松浦高校でしかない学びの充実にも力を入れていきたいと考えています。

二点目の校内での目線合わせについては、まず「まつナビ」の活動に関しては毎週1回「まつナビ・プロジェクト」活性化ミーティングを開催し、学年担当者間の情報共有を図っています。その上で、各学年会で実施内容や教員の役割分担等を共有しながら進めています。こうして、活動自体の目線合わせはある程度図ることができていますが、新学科の理念の共有、目線合わせについては、年度初めにスクールミッション及びスクールポリシーを提示しているにすぎず、教職員への浸透には課題があります。その結果、生徒への理念の浸透も不十分となり、この点については、校長として責任を強く感じています。

現行の学習指導要領の理念を実現するために、「チームとしての学校」の体制整備が求められています。そこでは、「新しい時代に求められる資質・能力を育む教育課程を実現するための体制整備」として、社会に開かれた教育課程、指導方法の不断の改善、カリキュラム・マネジメントの推進の必要性が示されています。まさに、本研究指定事業に求められていることです。研究指定3年目となる次年度は、教職員間で理念や情報の共有を図り、「チームとしての学校」として持続可能な体制整備をすすめていきます。

＝新時代に対応した高等学校改革推進事業（普通科改革支援事業）目次＝

巻頭言

第1章 事業の概要

1 本校の概要	1
1-1 所在地	1
1-2 設定課程および在籍生徒数	1
1-3 学校経営方針	1
1-4 令和5年度グランドデザイン	4
2 事業構想（ビジュアル資料）	5
3 令和5年度実施計画の概要	6
3-1 3ヶ年の実施計画の概要	6
3-2 令和5年度の計画の内容	7
3-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画	9
3-4 成果の普及のための計画	10
3-5 管理機関の役割と実施計画	10
4 先進的な教育の取組の概要	12
4-1 実施計画の概要	12
5 地域科学科	13
5-1 設置の目的	13
5-2 令和5年度における活動の重点項目	15
5-3 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～	17

第2章 事業の内容（実施計画Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ）

1 実施計画Ⅰ	19
1-1 活動目標	19
1-2 実施計画	19
1-3 1年生の活動実績	19
1-4 2年生の活動実績	24
1-5 地域素材を活用した授業実践	28
1-6 ルーブリックの改善	31
1-7 松浦高校における事業の管理	34

2	実施計画Ⅱ	36
2-1	活動目標	36
2-2	実施計画	36
2-3	運営指導委員会	36
2-4	コンソーシアム会議	37
2-5	学校外の組織等との協働	39
2-6	コーディネーターの活動内容	44
2-7	新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績	48
2-8	国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組	49
2-9	他の事業との関係	50
3	実施計画Ⅲ	51
3-1	活動目標	51
3-2	実施計画	51
3-3	活動内容	51

第3章 管理機関の役割

1-1	管理機関による活動実績	54
1-2	管理機関における事業全体の成果検証・評価	55

第4章 事業検証と次年度に向けて

1-1	今年度の目標設定についての検証	57
1-2	次年度に向けて	76

第1章 事業の概要

1. 本校の概要

1-1 所在地

〒859-4501 長崎県松浦市志佐町浦免738-1

1-2 設定課程および在籍生徒数（令和6年3月1日現在）

	1年	2年	3年	計
普通科	—	—	49	49
地域科学科	37	28	—	65
商業科	25	23	26	74
合計	62	51	75	188

1-3 学校経営方針

1 校訓

「自己開拓」に全力を注ごう 正しい人間関係をきずいていこう よき市民性を身につけよう

2 スクールミッション（教育方針）

<どのような生徒を育成するのか：社会的役割>

校訓「自己開拓」の精神のもと、基礎学力を高め、主体的に考え粘り強く行動できる人材を育成します。また、持続可能な地域や社会の担い手として、豊かな人間性や協働性を備えた人材を育成します。

<どのような教育を目指すのか：教育理念>

不断の授業改善に基づき、学力をはじめとする生徒一人ひとりの多様な資質・能力の育成を目指します。また、生徒一人ひとりの進路実現を図るため、地域・大学等との協働による探究的な学びや、部活動をはじめとする様々な活動を通して、キャリア形成力や人間力を高める教育を目指します。

<学校の特色、強み、魅力（独自の教育）等：今後の方向性>

全国初の新しい普通科を設置した松浦市唯一の高等学校として、地域社会のニーズや生徒一人ひとりの進路希望に応えられる多様な教育活動の展開を図ります。また、文部科学省研究指定の「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」および「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業」の成果を生かし、地域・大学等との協働や県内外の高校との連携による探究的な学びの一層の充実を図ります。

3 スクールポリシー

【育成を目指す資質・能力に関する方針】（グラデュエーションポリシー）

- 将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間を育成します。
（キャリア形成力）
- 社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることができるなど、品性を備えた人間を育成します。（責任言動力）
- 地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ人間を育成します。
（ふるさと貢献力）

【教育課程の編成及び実施に関する方針】（カリキュラムポリシー・学びの方針）

- 将来の目標を実現させるため、「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善及びICTの積極的な利活用を推進します。
- これからの社会を生き抜くために必要な課題解決能力や協働性、ふるさとを大切にす姿勢などを育成するため、地域の企業や大学等と連携・協働しながら「まつナビ・プロジェクト」や授業での探究学習の充実を図ります。
- 「ルーブリック」や「ポートフォリオ」を活用した学習活動の振り返り等を通じて、自己調整力やキャリア形成力の育成を図ります。

【入学者受け入れに関する方針】（アドミッションポリシー・求める生徒像）

- 高い志や将来の目標を持ち、その実現に向けて取り組もうという意欲が高い生徒を募集します。
- 高校生活（学習、部活動、学校行事等）に積極的に取り組み、他者と協力して行動しようという意欲が高い生徒を募集します。
- 地域や社会の課題解決に貢献したいという意欲が高い生徒を募集します。

4 重点目標

（1）学びあう学校づくり（授業の充実・進路希望の実現）

- ①平素からの授業改善やICT機器の利活用等により、知識・理解など基礎基本の徹底を図るとともに、思考力・判断力・表現力を育成する。
- ②ルーブリックやポートフォリオ等を積極的に活用しながら観点別評価の充実に取り組み、生徒の資質・能力を多面的に評価することで、生徒が主体的に学びに向かう姿勢を育成する。
- ③入試情報や検定や就職に関する情報の収集・分析・発信に取り組み、生徒個々のキャリアプランニングによる進路希望の実現を図る。

（2）支えあう学校づくり（生徒指導の充実と教育相談の推進）

- ①生徒の人権に配慮し、支援や配慮が必要な生徒には柔軟に対応し、全教職員で情報共有を図るとともに、関係機関と速やかに連携をとりながら支援・指導にあたる。
- ②自他の命、健康・安全を守ることを最優先とし、社会の一員としての責任感を持たせ、

相手への思いやりのある言動を心がけさせるなど、品性を備えた人間を育成する。

(3) 伸ばしあう学校づくり（生徒の多面的な力を育む教育活動の推進）

- ①学校行事、学級活動、部活動、生徒会活動、ボランティア活動などを通して、生徒の主体性、積極性、協働性を養う。
- ②各教育活動の目標を明確にした上で、生徒自身が目標実現に向けたプロセスを自己評価し、自らの成長を実感することができるよう支援・指導にあたる。

(4) 「まっナビ・プロジェクト」（生徒の「資質・能力」の育成）の充実

- ①文部科学省研究指定事業を軸として、地域・大学・中学校等と連携して「まっナビ・プロジェクト」の充実を図り、未来の地域社会の担い手となる人間を育成する。
- ②生徒の「自分事」としての課題研究活動と各教育活動の連携を図り、課題解決能力をはじめとする多様な資質・能力を育成し、生徒のキャリア形成を図る。
- ③普通科改革の先駆的な取り組みを県内外に発信し、「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築を進めるための体制・運営の研究を進める。

(5) 中学校・地域社会・保護者との連携

- ①学校ホームページ、学校だより、SNS、保護者へのメール配信などを通じて、学校から最新情報を発信し、本校への理解を促進する。
- ②学校説明会、オープンスクール、情報発信等の広報体制の改善を図り、生徒募集活動の充実によって志願者の増加を図る。

(6) 教職員の「ワーク・ライフ・バランス」の推進

- ① 教員間の協働性を高め、持続的な教育活動が展開できる職場環境づくりを推進する。

1-4 令和5年度グランドデザイン

令和5年度の松浦高校のグランドデザインは以下のとおりである。将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける人間になるための「キャリア形成力」、社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた人間になるための「責任言動力」、地域や社会の課題解決や発展に貢献しようとする意欲を持つ人間になるための「ふるさと貢献力」といった力を身に付けた生徒を育てる。この実現のために、キャリア形成につながる学びの充実を図り、生徒一人一人の進路実現をかなえていく。

令和5年度 松浦高校グランドデザイン

～未来の地域イノベーション人財の育成～

このような力を身に付けた生徒を育てます

○キャリア形成力

将来の目標を持ち、その実現に向けて主体的に努力を続ける生徒

○責任言動力

社会の一員としての責任感を持ち、相手を思いやることのできるなど、品性を備えた生徒

○ふるさと貢献力

地域や社会の課題解決や発展に貢献しようという意欲を持つ生徒

キャリア形成につながる学びの充実



松浦市から様々な学びの支援

補習・模擬試験・英検・商業検定補助、航路代・部活動強化・まつナビ支援等

一人一人の希望に応じた進路実現

○地域科学科・普通科

国公立大学・私立大学
各種専門学校

○商業科

国公立大学・私立大学（商業科枠）
各種専門学校、市内外の優良企業

2. 事業構想（ビジュアル資料）

松浦高校における本事業の構想は以下のとおりである。



3. 令和5年度実施計画の概要

3-1 3ヶ年の実施計画の概要

地域科学科（地域社会学科）における令和4～6年度の実組の実効性を高めるため、取組の目的・目標及び教育活動を通じて生徒が獲得することを旨とする「資質・能力」を踏まえ、次のⅠ～Ⅲの実実施計画及び各年度における実施計画を策定。

(1) 実施計画

- Ⅰ 育成を目指す「資質・能力」に基づき、教科等を横断する学びを含む、生徒の自己有感感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムを中心とした、中学校と高等学校の学びの連携・交流及び高等学校と大学・企業等の連携による、SDGsを踏まえた地域課題解決型探究活動及びキャリア形成力の涵養活動を組織的に支援する体制の構築・運営の充実
- Ⅲ 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築と、地域・学校活性化を目標とした学びを進める体制・運営の研究開発

(2) 各年度における実施計画

○令和4年度

- 計画Ⅰ 各教育活動ルーブリック評価規準作成・実践・改善
- 計画Ⅱ 中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携・協力体制の在り方を含む改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの構築・交流の開始

○令和5年度

- 計画Ⅰ 生徒のキャリアプランの作成状況を踏まえたルーブリック評価規準の検証・改善及び各教育活動への反映
- 計画Ⅱ 令和4年度の検証等を踏まえた支援体制の充実と生徒の探究活動等への支援の検証・改善
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワーク参加校における生徒間の協働活動の推進、教員間の情報共有

○令和6年度

- 計画Ⅰ 地域科学科1回生のキャリアプランの実現に向けたプロセスの検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅱ 地域・学校活性化に向けた、3年間の生徒支援の検証等による総括、次年度以降の計画策定
- 計画Ⅲ 「地域高校」ネットワークの3年間の取組の検証等による総括、次年度以降の計画策定

3-2 令和5年度の計画の内容

学期	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
1 学期	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「資質・能力」を獲得するために、ルーブリック評価規準を用いたポートフォリオへの記録と運用開始 ・将来的に松浦市を担うふるさと貢献力と課題分析・解決能力を高めるために、生徒が松浦市未来会議へ参加 ・キャリアプランの実現に向けて、生徒の各専門領域への興味関心を高め、キャリア意識の向上を図るために、キャリア講演会を実施 <p>【2年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最終発表に向けて、外部人材等からアドバイスを受けることで研究のブラッシュアップを進めることを目的とした中間発表会を実施 <p>【1年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとへの貢献意欲を高めるために、松浦市の現状を知り、歴史等についての情報収集を行う、生徒が企画したバスツアーを実施 ・生徒が自ら学び、行動する力を身に付けるマインドセットのために、外部人材によるワークショップを実施 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルーブリック評価規準の運用開始 ・本校のグランドデザインやスクールミッション・ポリシー等の周知、募集活動及び中学校と高等学校の学びの連携・交流を進めるために、中学生向け説明会を実施 ・本校の研究開発に対する支援及び事業推進体制の構築を図るため第1回コンソーシアム会議を、また、今年度の実践活動について指導助言を行う第1回運営指導委員会の実施 ・進学や就職といった幅広い進路について学びつつ、地域との協働による活性化を図るために高大連携講座を実施 ・これまでの高校間交流をもとに、「地域高校」ネットワーク構築に向けた連絡・調整を開始 <p>【1年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後の探究活動において、深い学びを実現するために行うバスツアーについて、松浦市やコンソーシアム等と企画・調整を実施 ・中学校との学びの連携・交流を進めるために、本校オープンスクールを開催 ・松浦市の課題等を知るために、ブース形式説明会を実施（松浦市各課） ・松浦市で活躍している事業所を知るために、松浦商工会青年部講演会を実施
2 学期	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科等の横断的な学びを進めるとともに、課題分析・解決能力の基礎的な力を身に付けるために、公開授業を実施 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の「地域における学び」を推進している高校と本校ファシリテーター等

	<p>(商業科との連携も含む)</p> <p>【2年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「まつナビ・プロジェクト」の実践活動について、地域の方々へ生徒が主体的に地域課題について考え、実践した成果を発表し、周知をはかるために、課題研究発表会を実施 <p>【1年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICTを有効活用し、キャリアプランニング力を高め、進路希望の実現につなげる職業調べを実施 ・コミュニケーション力や課題分析・解決能力を身につけるために、学習報告会を実施 	<p>でネットワークを構築するために、地域のコーディネーター等による連携・協働研究ミーティングを実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の未来を担う人材育成を図りつつ、ふるさとへの貢献意欲を高めるために、「地域の達人」による人生の達人セミナーを実施 ・コンソーシアム等と生徒が次年度実施する課題研究活動のテーマの設定に向けて、コンソーシアムの構成事業所等と連絡・調整を実施
3 学 期	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望実現のために、ポートフォリオを用いて、1年間の活動の振り返りを実施 <p>【2年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動成果の校外に向けた周知をはかるために、外部コンテストに参加 ・将来の職業選択やキャリア・プランニングを進めるために、地域の外部人材へのインタビュー等を通して、松浦市仕事図鑑（仮称）を作成 <p>【1年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題発見・テーマ設定力といった課題分析・解決能力を身に付けるために、地域の未来を考察し、発表、実践する次年度実施の課題研究活動テーマ設定 ・課題研究活動の実践活動の手法等を学びつつ、コミュニケーション力等を高めるために、課題研究構想発表会を実施 	<p>【全体】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通じた課題研究活動の検証を行い、次年度の計画立案を行うために、コンソーシアム会議を実施 ・年間を通じた事業の検証及び指導助言を行うために、運営指導委員会を実施 <p>【2年生】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内外の「地域高校」ネットワークを活用し、学校活性化につながる、生徒の学習意欲を高めるオンライン交流会を実施

3-3 事業の進捗状況の定期的な確認や改善計画

地域科学科における事業の進捗を管理するとともに、計画Ⅰ～Ⅲを中心に進める事業の質的な向上を図るため、PDCAサイクルに基づく組織マネジメントを校内外の組織をつなげて推進する。その際、成果指標（アウトカム）設定の考え方等に基づき、事業の成果と課題を検証する。

(1) 定期的な確認や改善を図る組織及びその活動内容

①地域科学科・活性化ミーティング（プロジェクトチーム）

- ・成果目標を踏まえて、研究開発の進捗管理を行い、計画・方法等の改善を図る。

②コンソーシアム会議

- ・定期的なコンソーシアム会議における、松浦高校との連携の内容・方法等に関する意見等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

③運営指導委員会による検証・改善

- ・定期的な運営指導委員会による、成果目標を踏まえた事業の検証及び指導助言等により、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討する。

(2) 成果指標（アウトカム）設定の考え方

①計画Ⅰにおける成果指標

- ・生徒個々のキャリアプランを踏まえた、進路希望の実現率（％）

②計画Ⅱにおける成果指標

- ・課題研究発表会等において、審査員等から地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合（％）

③計画Ⅲにおける成果指標

- ・育成したい資質・能力（課題分析・解決能力、コミュニケーション力、ふるさと貢献力）に関するルーブリック評価規準の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

(3) その他

①生徒、保護者、教職員等アンケートの実施

- ・地域科学科の取組に関する理解度、満足度等のアンケート調査の結果分析に基づき、事業計画の改善を図る。

3-4 成果の普及のための計画

次の(1)～(3)により、成果の普及を図る。

(1) 小・中学校及び地域等への成果普及

- ①松浦高校のWebページ上に専用のカテゴリを作成し、以下の生徒の活動状況を随時更新する。
- ②松浦高校の生徒が、小・中学校を訪問し、児童・生徒向けに課題研究の成果を発表する。

(2) 県内外の「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の成果共有・成果普及

- ①宮崎県飯野高校の「全国グローバルリーダーズサミット」等に参加し、互いの活動や成果を共有し、協働することによって生じる各種の成果をそれぞれの学校が発信し、全国レベルでの普及につなげる。

(3) 教員向けの成果共有・成果普及

- ①実践報告発表会等において地域への貢献度が高いと認められる生徒のプロジェクトを共有するため、Webへの掲載・発表動画配信や関係各校への報告書等の送付により、広く情報発信を行う。

3-5 管理機関の役割と実施計画

(1) 実施体制や事業の管理方法

本事業の管理・指導・支援は、長崎県教育庁総務課県立学校改革推進室及び高校教育課が行うこととする。

- ①管理機関は、本事業の運営に関して指導助言に当たる運営指導委員会を設置するとともに、地域課題解決型学習を組織的に支援するコンソーシアムとの連携協力体制を整備する。また、その連携協力が円滑に行われるよう、連絡調整を担うコーディネーターを松浦高校に配置する等、取組の支援を行う。
 - ・運営指導委員会は、学識経験者や行政職員等、専門的見地から指導助言に当たる第三者により組織し、事業の目的・目標を踏まえた地域科学科の研究内容について客観的に検証及び指導助言を行う。
 - ・コンソーシアムは、松浦市、大学、地元企業・経済団体、小・中学校等、豊富な実践と高い見識を持つ方々により構成し、幅広い視点から専門的な指導と助言を受けられる体制を築く。
 - ・コーディネーターには、管理機関、松浦高校、コンソーシアムと将来の地域ビジョン・求める人材像等を共有でき、地域の実情や魅力・課題に深い見識を有する方を指名する。
- ②管理機関は、運営指導委員会と連携しながら、定期的に松浦高校を訪問し、教育課程編成、学校設定科目、カリキュラム・マネジメント、ルーブリックによる評価及び授業改善への指導助言等を行うとともに、コンソーシアムの更なる充実や、「地域に根ざし

た高等学校」ネットワーク構築に向けて必要な支援を行う。そして、進捗状況を把握した上で事業全体を管理し、事業の検証・改善への提案を行う。

- ③地元松浦市や松浦高校と連携しながら各種メディア等における広報活動を行い、地域科学科における教育活動や「資質・能力」について、中学生、保護者、地域住民への周知及び理解促進を図る。また、松浦高校を普通科改革のモデルケースとして、実践報告発表会等を通して他校への普及を図る。

(2) 管理機関における事業全体の成果検証、評価のための体制、考え方

管理機関は、松浦高校、コンソーシアム会議及び運営指導委員会と連携し、事業全体の成果検証及び評価を行う。

①松浦高校と連携した検証・評価

- ・生徒の目標達成度合いについて、管理機関、学びアドバイザー等により評価を行い、取組の成果を検証する。検証した結果は、運営指導委員会に報告する。
- ・広報活動により、地元中学生や保護者に対して、地域科学科の設置目的や、「資質・能力」についての理解促進が図られたかどうかを検証する。

②コンソーシアム会議と連携した検証・評価

- ・探究活動への研究支援及び生徒のキャリア形成への支援の充実に向けた取組の検証及び評価を行う。

③運営指導委員会と連携した検証・評価

- ・コンソーシアム会議等から報告された検証結果も踏まえ、事業全体の成果検証及び評価を行う。
- ・成果検証及び評価の結果について、コンソーシアム会議等に対してフィードバックを行う。
- ・定期的な運営指導委員会による事業の検証及び指導助言等を踏まえ、プロジェクトチームが中心となって改善案を検討し、以後の計画等に反映させるとともに、次回会議でその内容を報告する。

4. 先進的な教育の取組の概要

4-1 実施計画の概要

(1) 松浦高校普通科（令和3年度まで）の特色

- ①松浦高校は、長崎県松浦市内にある唯一の高等学校であり、普通科・商業科の併設校である。
- ②入学者の減少を受けて、平成25年度から、松浦市による、松浦高校の生徒を対象とした就学支援制度が創設された。また、翌26年度には、それまでの普通科に加えて、中学生の多様な進路希望への対応を図るため商業科が併設され、普通科2クラス（定員80名）、商業科1クラス（定員40名）となった。

(2) 地域科学科の導入

- ①令和3年6月に策定した「長崎県立高等学校教育改革第9次実施計画」により、松浦高校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む地域科学科（地域社会学科）を、令和4年4月から普通科に代えて導入した。

(3) 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～

- ①平成29年度から、松浦市と協働して、ふるさとを大切にする姿勢を身に付けることを目指して、松浦高校2年生が地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動～「まつナビ」～が開始された。
- ②令和元年度までの3年間で取り組んだ「まつナビ」を進化させた新たな地域課題解決型学習が「まつナビ・プロジェクト」であり、令和2年度から令和4年度まで文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定校となった。
- ③「まつナビ・プロジェクト」

松浦高校と松浦市が協働で取り組んできた高等学校2年生での地域課題解決型学習「まつナビ」に、1年生での「プレまつナビ」、3年生での「ポストまつナビ」を連動させて、3年間の連続性のある探究学習に進化させたもの。生徒の課題解決能力を高めること等を目指して次のⅠ、Ⅱの研究開発単位を設定し研究開発を実施した。

- Ⅰ 地域を愛し大切にする姿勢の育成と課題解決能力を高めることを目指した、高等学校3年間の地域課題解決型学習を充実させるカリキュラムの研究開発
- Ⅱ コンソーシアムをはじめとする、地域課題解決型学習を組織的に支援する体制についての研究開発

5. 地域科学科

5-1 設置の目的

(1) 学際領域学科又は地域社会学科を設置する高等学校を取り巻く状況の分析、学際領域学科又は地域社会学科を設置する必要性

①松浦高校を取り巻く状況

- ・長崎県は若者の流出や人口減少が著しく、地域を担う人材不足が深刻化している。そのため県内の多くの地域において、高等学校と地元自治体等が協働して地域活性化に資する人材の育成に取り組んでおり、今後その取組をさらに充実させるため、学校間の活動の連携を深めるネットワークづくりを進めることが求められている。
- ・松浦高校は、令和3年度に60周年を迎えた松浦市内にある唯一の高等学校（普通科・商業科設置）であり、地域社会の未来を担う人材の育成が期待されている。
- ・松浦市からは、就学支援制度の創設（平成25年度～）、地域課題解決型学習「まっナビ」への支援（平成29年度～）、文部科学省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究開発（令和2年度～令和4年度）において、継続的多角的な支援が行われている。
- ・市内中学校の保護者を含む地域の方々からは、自ら学ぶ姿勢を身に付け、基礎学力を高めることで生徒一人ひとりの進路希望の実現を図ることが求められている。特に大学進学に向けた教育活動の充実を望む声が強い。また、生徒一人ひとりが責任ある言動ができるなどの「人間力」の育成や、県内外の高校生との交流を深めたり、部活動の活性化を進めたりすることによる、「活力ある」学校づくりが求められている。

②地域科学科を設置する必要性

- ・松浦高校のこれまでの取組の成果や国の普通科改革に係る制度改正等を踏まえ、地域や社会の未来を担うリーダーの育成を図るために、高等学校が立地する地元自治体を中心とする地域社会から得られる様々な分野の知見を学ぶことにより教養を深め、現在及び未来の地域社会が有する課題や魅力に着目した科学的・実践的学びに重点的に取り組む学科を設置する。
- ・県内の「地域に根ざした高等学校」の先行モデルとして導入し、取組の成果の普及を図る。
- ・地域科学科においては、前述の内容を踏まえ、以下の①～③の取組の推進が必要である。

① 生徒個々のキャリアプランの作成をすすめ、そのプランに基づく進路希望の実現

② 松浦高校と近隣の中学校及び大学等との協働による地域活性化への貢献

③ 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による参加高等学校の活性化

(2) 学際領域学科又は地域社会学科における取組の目的・目標（学際領域学科又は地域社会学科における教育を通じて育成を目指す資質・能力を含む）

①目的 地域社会の未来を担うリーダーの育成

～目指す資質・能力の涵養と地域活性化への貢献～

②目標

- ① 生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現
- ② 中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献
- ③ 県内外の「地域に根ざした高等学校」との連携等による学校活性化

③育成を目指す人物像及び育成を目指す資質・能力（以下、「資質・能力」。㉑～㉔）

- ① 将来の目標を持ち、その実現に向けて努力を続ける人物（キャリア形成力）
 - ㉑「働くこと」に関する情報の取捨選択を含むキャリアプランニング力
 - ㉒自ら学び、行動する力
 - ㉓課題分析・解決能力（課題発見、データ分析、論理的考察、計画性等）
 - ㉔コミュニケーション力（傾聴・対話・プレゼンテーション）
- ② 責任感があり、相手を思いやる言動ができるなど、品性を備えた人物（㉑責任言動力）
- ③ ふるさとを大切に思い、その発展に貢献しようとする意欲を持つ人物（㉒ふるさと貢献力）

④地域科学科における教育（概要）

「資質・能力」をもとに、次の①～⑤の教育活動の関連性を強める。また、各教育活動のルーブリック評価規準を明示し、生徒が各教育活動における取組の自己評価を行い、その改善を図ることができるようにする（指導と評価の一体化の推進）。

- ① 松高キャリア・プランニング
- ② まつナビ・プロジェクト（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）
- ③ 一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実
- ④ 生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動（生徒会活動、ボランティア等）
- ⑤ 生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動（部活動等）

⑤「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」と並行した取組について

- ・上記「②目標①」では、「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究開発単位Ⅰにおける「カリキュラムの研究開発」をさらに進め、育成を目指す資質・能力を身に付けさせるための指導と評価を一体的に行うカリキュラム開発を推進する。
- ・上記「②目標②」では、コンソーシアムにも入る長崎大学・長崎県立大学等との連携（大学生との交流も含む）により生徒の学びの充実を図る。また、コーディネーターの設置により松浦市内の中学校との連携も強化し、中学校の「ふるさと教育」と「ま

つナビ・プロジェクト」をつなげる中高連携により教育活動の充実を図る。

- ・上記「②目標3」では、普通科改革に取り組んでいる県内外の高等学校とのネットワーク構築を進め、連携校間の研究開発の共有による教員の資質・能力の向上及び生徒間交流による生徒の資質・能力の向上に取り組んでいく。

5-2 令和5年度における活動の重点項目

(1) 主な教育活動

①松高キャリア・プランニング

- ・「自分の将来」について考え、決断し、その実現に向けた実践につなげる教育活動
- ・ルーブリックによる評価を活用した各教育活動における定期的な自己評価（振り返り）と「松高ポートフォリオ」への記録・検証・取組の改善

②まつナビ・プロジェクト（「地域高校」ネットワークの構築・協働研究を含む）

- ・地域課題探究学習により、「課題分析・解決能力」、「ふるさとを大切にする姿勢」を育成
- ・松浦市、長崎大学、長崎県立大学をはじめとする学校外の組織等との協働
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

③一人ひとりの生徒のキャリアプランを踏まえた普通教科の学びの充実

- ・生徒一人ひとりのキャリアプランを踏まえ、地域素材を活かした新たな教科・科目の取組
- ・まつナビ・プロジェクトとの関連を深めることなどによって「課題分析・解決能力」等を伸ばす学びの推進

④生徒の自己有能感を高めるための主体的な活動の推進

- ・生徒会が中心となった行事等の企画・運営
- ・生徒有志による校則見直し委員会発足及び主体的なルールメイキング活動
- ・特別活動などにおける生徒の自発的な活動の充実

⑤生徒の「責任ある言動」を伸ばす活動

- ・特別活動等における、生徒相互が「支え合い、伸ばしあう学び」の推進
- ・各部活動で設定した目標に基づく、「人間力」向上に向けた活動の推進

⑥商業科との連携による教科横断的な取組

まつナビ・プロジェクトは、地域科学科と商業科との合同で実施する。地域課題探究学習を進める上で必要な課題分析・解決能力等は商業科の「情報処理」や「マーケティング」等の内容でも取り扱っており、その内容を地域科学科と商業科とが共有することで、教科横断的なカリキュラムの開発にもつなげていく。

(2) コンソーシアム等の関係機関等との連携・協力体制の構築の考え方・方法

①連携・協力体制構築の考え方

コンソーシアムを中心に、まつナビ・プロジェクトでの探究活動や地域の中学生・高校生のキャリア形成力育成につながる取組への支援の充実を図る。また、生徒の多様な探究活動等への助言等が可能な地域の諸団体や人物に支援を依頼するなどして、協力体制の強化を図る。

②連携・協力体制構築における重点項目

【令和4年度】

- ・ふるさと学習を起点とした中高協働学習や、高等学校、大学及び地元企業等の連携（以下、「高大職連携」）によるSDGsを踏まえたまつナビ・プロジェクトの探究活動及び中・高校生のキャリア形成力育成活動への支援の充実を図る。
- ・コンソーシアムによる効果検証等に基づき、校内の「地域科学科・活性化ミーティング」に「学びアドバイザー」や関係機関の担当者に定期的に参加してもらい、持続可能な組織の在り方を含む連携・協力体制の改善を図る。

【令和5年度】

- ・令和4年度の検証及び令和4年度末に創設した「まつうら高校応援団」との連携に基づき、地域との連携・協力体制の充実と生徒の探究活動へのより効果的な支援を進め、連携・協力体制の改善を図る。

【令和6年度】

- ・地域・学校活性化に向けた中高協働学習・高大職連携をはじめとする松浦高校と連携組織等との3年間の取組の検証等による総括、令和7年度以降の連携・協力体制等の在り方について検討する。

5-3 先進的な教育の取組～まつナビ・プロジェクト～

(1) まつナビ・プロジェクトとは

平成25年度、松浦市内唯一の高校である松浦高校への入学者の減少などもあって、松浦市による、松浦高校の生徒を対象とした就学支援制度が創設された。当時は2年生全員を複数の研究班に分け、松浦市役所職員が班毎のファシリテーターとなり、学年担当教職員とチームを組んで生徒の課題研究を支援する体制で始められた。平成29年度からは、松浦市と松浦高校が協働して、学校の魅力を高めることなどを目指した、地域課題の解決策について調査・考察・発表する教育活動が始められた。これが「まつナビ」である。

令和2年度からは3年間を見通したカリキュラムに変更した。また、同年度から令和4年度までの3年間、文科省委託事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の研究指定校となった。

さらに、令和4年度4月より新しい普通科である「地域科学科」が開設されると同時に文科省2つ目の委託事業である、「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」の研究指定校となり、令和4年度については、文部科学省の2つの事業の指定を受けることになった。

松浦高校の学校改革の動き

<学校と地域との連携> 定員120名（地域科学科2学級・商業科1学級）

H25	<ul style="list-style-type: none"> ●生徒数の減少により普通科が1学年4学級（160名）から3学級（120名）となる ●松浦市による就学支援制度開始
H26	<ul style="list-style-type: none"> ●商業科を新設、普通科2学級・商業科1学級となる（定員120名）
H29	<ul style="list-style-type: none"> ●地域課題探究学習「まつナビ」スタート【2年生のみの活動】
R2	<ul style="list-style-type: none"> ●文科省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」研究指定（～R4年度）【1～3年生までの活動へ】
R4	<ul style="list-style-type: none"> ●普通科を地域科学科に改編 ●文科省「新時代に対応した高等学校教育改革推進事業（普通科改革支援事業）」研究指定 ●普通科を「地域科学科」に改編

(2) 年間実施内容

以下の表は、本事業対象の地域科学科 1、2 年生におけるまつナビ・プロジェクトの年間実施内容である。

(表中の数字は実施回数である。)

業務項目		実施日程											
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年	①地域素材を活用した授業づくり・授業実践	1	1	1	1	1	2	2	3				
	②MATSUURA 仕事図鑑作成			1	4	1	4	1					
	③課題研究活動に必要な知識・技能習得	2	3	3	1				2				
	④研究テーマ設定								2	2	2	2	2
2年	⑤フィールドワーク	5	1		9								
	⑥中間発表会		3	3									
	⑦校内発表会				1	2	5	1					
	⑧課題研究発表会							5					
	⑨課題研究論文作成									2	3		
	⑩進路別探究活動											2	3

- ①地域素材を活用した授業づくり・授業実践（4月～11月）
- ②MATSUURA 仕事図鑑作成（6月～10月）
- ③課題研究活動に必要な知識・技能習得（4月～7月、11月）
- ④研究テーマ設定（11月～3月）
- （ア）フィールドワーク
- （イ）地域伝統行事（淀姫神社の神事「流鏝馬」見学）
- （ウ）市役所各課やまつうら高校応援団からの現状説明会（ブース形式説明会）
- （エ）個人テーマ設定→班別テーマ設定
- ⑤フィールドワーク（7月25日終日：松浦市内、隣市の佐世保市～伊万里市）
- ⑥中間発表（6月21日）ポスターセッション形式
- ⑦校内発表（9月27日：代表班選考会）
- ⑧課題研究発表（10月25日：松浦文化会館）
- ⑨課題研究論文作成
- ⑩進路別探究活動
- （ア）進学就職別バスツアー（2月21日）
- （イ）インターンシップ（3月12～14日）

*実際の活動については、「第2章」で説明する。

第2章 事業の内容（実施計画Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

1. 実施計画Ⅰ

1-1 活動目標

生徒個々のキャリアプランに基づく進路希望の実現

1-2 実施計画

生徒の自己有能感を高める教育活動と学習評価を一体的に行うカリキュラムの研究開発

1-3 1年生の活動実績

(1) 探究性を高めるための活動【実施計画Ⅰ】

①松浦再発見研修会（松浦市）

○日時：令和5年5月10日（水）14:05～15:45

○目的：松浦市の課題と現況を知る。

○内容：入学して間もない1年生が、松浦市の強みと課題を知るために、松浦市役所職員による研修会を行った。

第Ⅰ部 講演：「松浦市の強みと課題」

第Ⅱ部 ワークショップ：「松浦への思い」

○対象：1年生

○講師：松浦市政策企画課、文化観光課ふるさと納税・魅力発信室



②ビジネスプラン/データ研修

○日時：令和5年5月27日（水）

○目的：データやものの価値の見方について学ぶ。

○内容：ミネラルウォーターを例に時代とともに変化する価値について考える。

○対象：1年生

○講師：日本政策金融公庫



③まつうら未来講演会

○日時：令和5年5月24日（水）14：05～15：45

○目的：松浦市で活躍する方々に直接話を聞くことで、松浦の企業への興味・関心を高める。また、課題研究テーマ設定を行うためのテーマ設定力を身に付ける。

○内容：令和4年3月に設立された、「まつうら高校応援団」のうち8事業所に参加してもらいブース形式の講演会を行った。

○対象：1年生

【外部参加者】

住商エアバッグ 中興化成工業 稲沢鐵工 近江鍛工 九州電力 みやだデザイン
日本遠洋旋網漁業協同組合/西日本魚市 エミネントスラックス



■ 6月4日 長崎新聞

企業の熱意 生徒に届く
松浦高で未来発見講座

松浦市志佐町の県立松浦高（舟越裕校長、189人）は5月24日、1年生向けに「松浦未来発見講座」を校内で開き、地元の方々から業種で働く大人たちから仕事内容や熱意を聞いた。地域を挙げて同校を支援するまつうら高校応援団」に加盟する市内8企業・団体が参加。生徒は関心のある企業のブースを約10分ず



つ回り、説明を受けた後、仕事のやりがいや必要とされる人材、休日の過ごし方などを積極的に質問していた。参加した [] さん（15）は「ものづくりの企業からは『いい品物を相手に届けたい』という思いが伝わってきた。仕事への向き合い方も今後のお手本になる」と話した。

（則行優志）

地元企業関係者（左）から説明を受ける生徒 二松浦高

④MATSUURA仕事図鑑

○日程：令和5年度6月～10月

○目的：・仕事に対する理解を深め、自らのキャリアプランニングの一助とする。

- ・地域の方々へのインタビューを通して、コミュニケーション力を身に付ける
- ・地域課題の発見などを理解することで、課題研究テーマ設定力を高める。
- ・将来は松浦に貢献したいという気持ちを醸成し、将来的なふるさと貢献力を高める。

○内容：まつナビ・プロジェクトの活動の一環として、1年生が、グループごとに松浦市で働くの方々へのインタビューを行い、仕事の魅力や働く意味などをまとめた冊子を作成する。

■スケジュール

	日付	内容	目的や留意事項
1	4～5月	前年度の仕事図鑑配布 作成する成果物のイメージを膨らませる。	前年度にインタビューした事業所は対象から外す。
2	5/31 (水)	仕事図鑑インタビュー先の検討 松浦市やまつら高校応援団などから講演いただくことで、これまで知らなかった地域を知り、インタビュー先の候補が広がった。その中から3～4名の班単位でインタビュー先を決定する。	各クラスで分かれた班でインタビュー先を検討。担当教諭とも面談を重ねて、訪問先を決定する。
3	6月～ 7月上旬	アポイント取り 最初は各クラスの担任・副担任で手分けして、趣旨・内容説明と7月25日(火)の取材が可能かのアポイント取りを行う。	趣旨説明(目的・ターゲット等)はしっかり生徒へ行う。 依頼文書の送付先(担当者?責任者?代表者?)を訪ねておく。 後日(約1週間前)生徒からも電話があることをお伝える。
4	7/12 (水)	取材計画/模擬インタビュー 何を聞いてどのようにまとめるかを班で考え、インタビューアや写真係、記録などの係を決めて、実際に各班の担当教員を前に模擬インタビューを行う。	班員で、交代で役割のロールプレイングを行ってみる。その後役割分担を決める。
5	7/19 (水)	写真の撮り方講座/記事の書き方講座 地元の写真のスペシャリストを招いて、写真の撮り方講座を行う。写真は一人一台配布されているタブレットPCで撮影する。記事は長崎新聞社の記者による講座を行う。	ここまでの活動で疑問や不安なことをまとめておき、質疑応答の時間には、積極的に手をあげる。
6	直前	リハーサル 各班でリハーサルを進める。	担当教員(ファシリテーター)をモデルにリハーサルを行い、記録や写真のとりかたなどを研究する。
7	7/25 (火)	一斉取材 インタビュー開始10分前までには、現地でスタンバイを済ませる。①バイндナー ②筆記用具 ③タブレット ④名札 ⑤インタビューシートを忘れずにもっていく。	引率なしで生徒(班員)のみの活動になる場合もあるので、しっかり挨拶をして、和やかな雰囲気をつくる。
8	この期間	まつら高校応援団による支援 応援団に入っている事業所のうち、記事をまとめたり、レイアウトを考えるプロフェッショナル(専門家)に生徒の活動に入ってもらいなど、アドバイスをもらいながら、校正をすすめる。	来校していただける日は後日連絡する。ここまでで困っていることや不安に思っていることをまとめておく。
9	9/6 (水)	原稿提出 夏休み期間中にMicrosoft teamsでやり取りを進め、原稿をこの日に提出する。	夏休み中に、応援団のアドバイザーに相談に行ってもよい(必ず担当教員の許可を得ること)
10	この期間	訪問先に報告 写真や作成した文書を持って、インタビューをした方を再訪問し、この記事内容や写真で良いか、許可をとる。	仕事図鑑報告会の実施についてアナウンスもする。
11	9/13 (水)	仕事図鑑報告会 原稿を拡大したもので、説明会を行う。新しく何かを作ることはしない。インタビューをお願いした方にも声をかけるが、規模の大きな発表会にはしない。	地域の方々に感謝の意味も込めた報告会にする。長崎県立大学生にも参加いただき、助言をもらう。
12	10月末	成果物完成 報告会の後、アドバイスを受けて微調整を行い、最終稿を提出。1週間程度で完成。	大きな変更はしない。県立大学生の助言を聞いて微修正。

地元企業の魅力を図鑑に



完成した「MATSUURA仕事図鑑」を手に笑顔を見せるデザイン班のメンバーと宮田さん（後列左端）
＝松浦市、松浦高

松浦高は2017年度から、まちの課題解決に取り組む「まつナビ」を市と共同で実施。22年度から文部科学省の「新時代に対応した高校改革推進事業」の指定校になっている。

仕事図鑑は地域と生徒の結び付きを形にしようと、22年度に続き、生徒たちは昨年7月、3〜4人1組で取材先を訪問。インタビューや写真撮影に臨み、10月ごろまで記事執筆と図鑑を制作した。志6人のチームも発足。同市志佐町でデザイン業務などを営む宮田友徳さん(40)が助言役として参加し、生徒たちのアイデアを誌面に反映させた。

仕事図鑑(A5判、26頁)は昨年12月下旬に完成。同校の制服に採用されているタータンチェック柄の「松浦タートル」を各ページの上下にあしらった。ページを示す数字も、地元グルメのアシファラのイラスト入りで表示。仕事内容や一口メモなど読みやすさにもこだわった。

コンセプトは「小中学生に読んでほしい、仕事について考えてもらう」。デザインチームのひとり、(16)は「将来やりたいことを地元でも見つけられるんだと感じてもらえれば」と仕事図鑑に込めた思いを語った。

同校に隣接する市立志佐中の年徳校長世校長は「詳しく調査し、松浦のことがよく分かる。地域を学ぶ総合学習や進路指導の教材として役立てたい」と話した。

(取材 藤原 悠)

読みやすく工夫 市内小中学生に配布



小中学生向けに読みやすさを重視した「MATSUURA仕事図鑑」

(2) 主に主体性を高めたための活動【実施計画 I】

①外部講師によるワークショップ

(ア) 課題探究テーマ設定に向けた基礎講座

○日時：令和5年10月4日(水) 13:40~15:10

○目的：これから研究活動のテーマ設定を行う1年生がワークショップ等を通して課題探究テーマを設定する手法を身に付ける。

○内容：(前半) ワークショップ(ゲームをしながら論理的思考力を高める)
(後半) テーマを決めるための具体的な手法等の講義

○対象 1年生(62名) 1学年教員

○講師 伊万里まちなかラボ・コミュニケーション マネージャー 馬庭 亜由 氏

(イ) 産業能率大学による研修会

○日時：令和5年10月16日(月)

13:55~16:45

○目的：これから課題研究テーマ設定を行う1年生の課題や研究テーマの見つけ方やその後探究を進めるためのスキルアップを図る。



○内容：主体的学習者育成プログラム

世の中の事象を、問題意識をもって観察し、観察によって得られた事実を多様な視点から解釈できる！ことを体験する。

○対象：1年生向け 13:55～15:35 (100分)

職員向け 15:55～16:45 (50分)

○講師：産業能率大学経営学部 杉田一真教授 (学長補佐)

(ウ) プレ構想発表会 (仮テーマ設定)

○日時：令和5年12月6日(水) 14:05
～15:45

○目的：これから本格的にはじまる課題研究テーマ設定について、現時点で生徒が考える研究の対象・目的・方法等について確認する機会とする。また協働して研究する仲間づくりを生徒自身が行っていくための一助とする。



○発表形態：パワーポイントを用いたプレゼンテーションとし、1プロジェクト(1PJ)につき1分程度で発表する。※1PJ・・・1人～3人で編成

○対象：1年生

■今年の発表テーマ

w i t h DANCE さばやアジの捨てられるウロコを活用したい 松浦のお土産をつくろう
「チャレンジド」松浦 障がいと松浦 松浦と韓国の交流をつくる あらゆる人が楽しめる町づくり
松高に購買部をつくろう Homepage innovation 食品ロス0計画 他校生と交流し、知名度UPにつなげよう 町からゴミを減らそう 空き屋食堂 松浦の魅力を伝えよう☆
プロモーション強化 松浦の行事を増やそう 松高を有名に！！ エディブルフラワー ×スイーツ
空き屋を活用してみんなで遊べる所を作ろう スイーツを使って松浦市の知名度を上げよう
Cooking大作戦 松浦を盛り上げよう！ ごみピカ 松浦の人口増加のためにベビーカステラを
松高のイベントを増やす SNSで松浦市の知名度UP 街PRで知名度UP 少子化 松浦のお土産「クッキー」をつくる 松浦の知名度UP

(3) 主に協働性を高める活動【実施計画I】

①班別構想発表会 (テーマ設定)

○日時：令和6年2月21日(水) 13:55～16:00

○目的：地域課題解決に向けての構想を発表することにより、プレゼンテーション能力の向上や今後の活動の改善を目指す。

○発表形態：パワーポイントを用いたプレゼンテーションとし、1班につき3分程度で発表する。*1班3～4人で編成

○対象：1年生

■課題研究テーマ一覧（1年生）

班番	テーマ	課題	内容
02	水産業の活性化	漁業人口の減少	漁業体験や水産業関係者へのインタビューを通して、水産業の魅力を知り、若い世代へ発信する。
03	まつピカ	ゴミ問題	ゴミ拾いで松浦をきれいにする。
04	保湿剤製作	アジの捨てられるウロコを少しでも減らす	アジのうろこからコラーゲンを抽出し、そのコラーゲンを保湿剤に活用した製品を作る
05A	スイーツ製作	松浦市の知名度 特産品が「アジ」だけという イメージを変えたい	スイーツづくり 菓子店とコラボして持続性を確保する
05B	スイーツ製作	観光客の減少	食用花を使ったスイーツづくり クッキーを作る
06	あらゆる人のための町づくり	人口減少 環境保護 知名度 観光客増加	協力者を探す 資金集め 共同開発を進めていく 様々な人に対応した冊子づくり 広告（チラシ）
07	ひろがる「輪」	障がいを持った方々との 交流の機会が少ない	手話を習得する 聴覚障がい者の方々が困っていることを聞いて解決に向けてお手伝いする 発表会で発表することで多くの人に知ってもらう
08A	他校生と交流しよう	他校との交流が少ない 松浦市・松高の知名度UP 他校生との交流	松高に他校の高校生を呼ぶ 2日間の交流会を行う 長崎（松浦）どちらかの課題を見つける 一緒に見つけた課題を解決するための活動を考える その機会を使って松浦市や松高の良さを知ってもらう
08B	イベント誘致	松高の文化祭をもっと盛り上げたい	後夜祭 イルミネーション ランタンのな?? キャンプファイアー 募金活動
08C	想いよとどけ	行事が少ない	キッチンカーや屋台を呼ぶ
10	動物保護	野良犬・野良猫の殺処分増加	フィールドワークに行き、松浦市の現状を聞き、課題を見つけ解決する！
11A	Homepage innovation	松高の知名度UP	松高のHPを追加する
11B	SNSを使って松高知名度UP	松高の知名度UP	インスタグラムで松浦高校を紹介する
11C	民話のアニメ化	松浦市の人口減少	メロンやブドウ、トラフグなどの動画をUP 松浦特有の企業やお店を紹介

1-4 2年生の活動実績

(1) 主に協働性・社会性を高める活動【実施計画I】

①中間発表会

○日時：令和5年6月21日（水） 14:05～15:45

○目的：地域課題解決に向けての研究について、進捗状況を発表することで、生徒自ら研究の対象目的・方法等について確認する機会とする。また、今後の課題研究について専門家からアドバイスを受けることで研究の方向性を確かめる。さらに、全体の前で発表することで、校内発表および課題研究

発表に向けてよりよい発表のしかたを身につける。

○発表形態：ポスターセッションで各班3分、質疑応答3分を10回繰り返す。なお、その間、班員は交代で他班の発表を聞きに行く。

○対象：2年生

■研究テーマ

班	研究テーマ	タイトル	活動内容
1	松浦の知名度を上げる・人口増加	松浦名物ガチャポン	松浦の名物（アジフライ・マグロ）などをモチーフにしたキャラクターを作成し、それをガチャポンにして設置する。
2	お菓子開発	HAPPY菓子改革	新しい松浦の銘菓を開発する。
3	フードフェスタを開催	こーってっ！～松高フードフェスタ～	お店を集めてフードフェスタを開催し、松浦の知名度を上げる。
4	ゲームを使って町おこし	オフライン	Eスポーツイベントを開催し、松浦市外からも人を集めて観光客増加につなげる。
5	廃校を活用して自然の家にする	松浦あじおぶる自然学園	廃校を修復して利活用し、喜んでもらえるような場所を提供する。
6	少子化	子育てお助け倶楽部	松浦市が取り組んでいる子育てに関する情報を広める冊子を作成する。
7	松浦の社会減	w i t h 松浦	県外の中高生を呼び込み、松浦に宿泊して松浦の良さを体験するようなプログラムを作り、実際に泊まりに来てもらう。
8	ゴミ環境問題	ゴミリメイクで幸福を	松浦の海岸などでゴミを拾い、リメイクできるものはアクセサリなどにリメイクする。
9	農業支援（農業の魅力を伝えることで農業の人口問題を解決する）	長崎の廃れてしまった伝統野菜を復活させる！	松浦と関係していて今は栽培されていない「木引かぶ」を栽培する。さらに地域の飲食店と協力して「木引かぶ」を使ったレシピを開発し、販売してもらい、SNSで広める。
10	学生が集まる場所が少ないこと	空き家を活用し学生が集まることのできる場所を創ろう	空き家を、現在の「青プラザ」のような学生が集まって話したり保護者を待ったりする場所として活用したい。
11	観光客の増加	バイクMT23・フードイベント	バイクの展示会などを開き、観光客を呼び込みたい。そこで、グルメイベントも開催したい。
12	民話を活用し地域活性化	カッパの頭と松浦の経済に潤いを	民話「河童と河太郎」を広め、そのキャラクターのシール等を使って松浦の特産品を広めたい。また商品開発をしたい。

【外部参加者】

保護者、九州電力、松浦市教育委員会・学校教育課、市少年センター、松浦高校評議員、県立高校、運営指導委員、市文化観光課、市教育総務課、市産業振興課、市政企画課、県立大（学生9名）等 26名



②校内発表会（校内選考会）

- 日時：令和5年9月27日（水）14:05～15:45
- 目的：「まっナビ・プロジェクト」の実践活動について、地域の方々へ生徒が主体的に地域課題について考え、実践した成果を発表し、周知をはかる。
- 発表形態：パワーポイントを用いたプレゼンテーションとし、1班につき5分程度で発表する。
- 対象：2年生
- 評価について

- ・評価は外部の方々をお願いする。初めて発表を聞く人でも、活動のようすがわかるように、プロセスを丁寧に発表すること。
- ・評価基準は、以下の松浦高校のルーブリックによる評価（一部）で行う。各項目5点で審査員1人あたり合計25点満点。審査員4名で $25 \times 4 = 100$ 点で順位を決定する。

	知識・技能		思考力・判断力・表現力等		
	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力
評価基準	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができているか。	②パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができてきているか。	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望（提言・実践）が明確か

【外部参加者】

県内公立高校、市商工会議所、市議会議員、鎮西学院大、長崎県立大学（学生含む）、慶応義塾大学 SFC、長崎大学、地域の方々



③課題研究発表会

- 日時：令和5年10月25日（水）13:00～15:45
- 目的：「まっナビ・プロジェクト」の実践活動について、地域の方々へ生徒が主体的に地域課題について考え、実践した成果を発表し、周知をはかる。
- 内容：9月27日（水）に校内発表会（選考会）を行い、12班の中から選ばれた5つのプロジェクトが、この課題研究発表会で発表を行い、その他の班は、ポスターセッションを行う。
- 場所：松浦市文化会館 ゆめホール（長崎県松浦市志佐町浦免1110）

○日程

- 13:00～13:50 ポスターセッション（本会で発表しない班の取組紹介）7班
14:10～14:20 開会行事 校長挨拶
14:20～15:35 発表（5分発表＋7分質疑応答＋3分移動）代表5班
15:35～15:45 閉会行事 講評：高校教育課高校魅力化班

【外部参加者】

松浦市長、住商エアバッグ（株）、KTNテレビ長崎、鎮西学院大学、中興化成工業、九州電力、PTA会長、市政策企画課、運営指導委員、伊万里まちなかラボ、長崎県立大学、県企画部政策企画課、市議会議員、長崎大学 等 34名参加



(2) 主に主体性・自己認識を高める活動【実施計画Ⅰ】

①進路別探究活動

生徒一人ひとりのキャリア形成により直結した探究活動ができるように、今年度から年間計画に取り入れた。想定する活動内容としては、看護師希望と松浦中央病院等との連携や保育士志望者が小学校や幼保との連携がある。また、「まつナビ」での活動も可とした。

②キャリアアップデー

○令和6年2月21日（水）

2年生が就職班と進学班に分かれて、県内事業所もしくは長崎県立大学を訪問した。

○令和6年3月12日～14日

松浦市内事業所にて2年生全員がインターンシップを実施した。



■ハウステンボスでの説明



■九州テンでの説明



■長崎県立大学シーボルト校での説明



■長崎県立大学佐世保校での説明

1-5 地域素材を活用した授業実践

「地域科学科」としての特色をより一層明確にし、地域課題探究学習と教科学習との関連を強めるための取組として、以下の内容で令和5年度から取り組み始めた。

(1) 目的

地域との連携による教育活動の充実を図り、生徒の地域に対する理解を促し、地域への愛着を増進するため、各教科（国語、地歴公民、数学、理科、英語、保健体育、商業）において、地域を素材とした授業開発を進める。

(2) 計画

- ・年度当初 各教科で開発する授業概要（単元、時期など）について検討する。
- ・授業構想に目処がつけた段階から、長崎大学教育学部の各専門領域の先生方に助言をいただく。
- ・授業については、小・中学校の先生方をはじめとして地域の方々に公開するとともに、指導いただいた長崎大学の先生方に指導・助言をいただく。
- ・文部科学省の研究指定を受けている令和5・6年度の2年間、授業開発を進める。
- ・令和7年度から、学校設定科目（1年生1単位）とする。

(3) 令和5年度の実施内容

教科	授業内容	授業の目的	まつナビとの関連	学年	実施日	長崎大学・外部組織等からの支援
国語	○「言語文化」で実施 ○「松浦の民話」等の題材に、よく知られている民話も、地域によって異なることを知り、民話の比較を通して民話の存在意義を考える。	松浦の民話を身近なものとして味わい、地域に対する愛着を深める	探究テーマ	1年	10月20日 1コマ	教育学部 吉良史明准教授
地歴公	○「地理総合」で実施 ○志佐中学校との合同地域調査を実施。 3つのルート（西、東、南）を設定し、	地域調査法を学ぶ	探究スキル	1年	11月10日 3コマ	教育学部 大平晃久准教授

民	各ルートに6つの視点を置き、地域調査を行う。テーマは「松浦市のよいところ」を探す。					志佐中学校
数学	○「数学Ⅰ」の「データ分析」の中で、松浦市の様々なデータ(変量)の相関の有無を「相関係数」の値で判断し、自分たちの主張する根拠となるデータを探す。 ○近隣市町のデータを比較することで、松浦市の強み・弱みを理解する。	相関係数の求め方を理解し、その結果をもとに身近なデータを分析・判断する力を養う	探究スキル	1年	11月9日 1コマ	教育学部 前原由喜夫准教授
理科	○「科学と人間生活」のなかで、カーボンニュートラルに関する事象を扱う	データ分析、論理的思考力、プレゼンテーション力	探究テーマ	1年	9月14日 1コマ	教育学部 林幹大助教 九州電力松浦火力発電所
英語	○「英語コミュニケーションⅠ」で実施 ○リサイクルの導入から、アップサイクルの紹介をし、実際にアップサイクルできるものを考え、作ってみる。	課題発見力、プレゼンテーション力	探究テーマ・スキル	1年	10月19日 1コマ	教育学部 山岸利次准教授
保健体育	○「保健」で実施 ○松浦市の健康指標「いきいき松浦21」を活用して、現状を知り、生活習慣病・特定検診に焦点を当てて、受診率の向上に必要な手立てについて生徒自身が考え、具体策を考案した。	課題発見力、プレゼンテーション力	探究テーマ・スキル	2年	9月19日 1コマ	教育学部峰松和夫教授 松浦市健康ほけん課
商業	○売れる商品パッケージの手順の説明後、松浦市の特産品であるいりこと、アジフライ型のお菓子のパッケージを作成し、11月18日の合同販売実習で商品に生徒が作成したパッケージを貼り販売しました。※授業当日は、西村教授によるワールドカフェに内容を急遽変更	課題発見力、プレゼンテーション力	探究テーマ・スキル	1年	11月10日 1コマ	経済学部・アントレプレナーシップセンター長西村宣彦教授

(4) 教科の実践に対する長崎大学からの指導・助言

教科	長崎大学の先生方による			授業について 授業者の感想
	授業前の支援・助言	授業時の支援	授業後の支援・助言等	
国語	①事前に指導案や教材を見ていただき、新たな着眼点などを教えていただいた。 ②授業で紹介する「神道記」について、自分ではインターネットで文献の一部しか探すができなかったのだが、吉良先生から原典のコピーをいただくことができた。 ③同じ素材の民話は日本各地にあるようだが、相違する部分にこそ地域性が表れるのではないかという私見について、助言をいただいた。	①授業を参観してくださった。 ②授業の最後に、今回の授業が大学での学問につながるよう、生徒向けに話をしてくださった。	授業についての感想を話していただいた。また文献(データベース)の入手方法について教えていただいた。	一番ありがたかったことは、民話に対する私見を生徒に話しているのか不安に思っていたなかで吉良先生に後押ししていただき、心強く授業をやれたこと。
地歴公民	フィールドワークの6つの視点についての具体的な助言	各ルートの振り返り 今後の視点についての教示(例)まだ○○のような歴史的なものがあった。など)	特になし。	当日は寒い雨の中での調査となったので、予備日の設定等、日程等の変更も検討すべきであった。生徒は中学生と一緒に一生懸命調査を行っていた。
数学	教員側がデータを用意するのではなく、本来なら「高校生がアンケートで実際に収集したデータ」の方が使いやすいのでは、との助言をいただいた。	生徒グループのバワーポイントによるデータの「相関」の発表を聴いていただいた。そのあと、発表内容等に関し、アドバイスや質問をいただいた。	前原先生が研究なさっている内容(スマホ等の使用時間と学習等の相関に関するデータ)について、説明を受け、生徒からの質問にも応じていただいた。	「相関係数」に対する理解が深まったようでした。今後の「まっナビ」(探究活動)に生かしてもらえれば、と思います。
理科	単元とのかかわりや授業内容に対する助言	九州電力の講義中の生徒の見取り方	今後の授業方針や展開の助言	地域素材を生かした授業づくりの一助と

英語	どのような展開になるかの質問	についての助言 特になし	ネットだけではなく、書籍での調べ活動もおもしろい	なりました。 短いスパンでは時間が足りないので、長期でする必要がある内容だったが、進捗との調整で、長く時間を確保するのは難しい。
保健体育	松浦市の保健師とのチームティーチングで授業を進める生徒自身がいかに自分自身の課題として捉えることができるか	生徒の学習活動、学習成果についての講評	生徒たちの検診率向上のためのキャッチコピーが非常に分かりやすく良かったのは、生徒自身がよく考えた結果ではないか。保健師への質問の時間を設けるなど、生徒がより深く学び考える機会を確保すると、さらに良い授業につながるのではないか。	日常的な授業形態では、感じる事が難しい「身近さ」を松浦市で働く保健師の先生からの助言によって実現することができたと思う。生徒自身の感想からつながったと感じている。
商業	2つの商品パッケージ作成において、ターゲットの選定、現状分析と作り手の想いのギャップを分析した上でのアイデア創出が望ましいとの助言等をいただいた。	予定を変更してワールドカフェ形式の授業を実施していただいた。誰でも気軽に発言できる雰囲気の中で生徒たちは活発に意見を出し、良い経験を積んだ。	授業後、会議室で、授業の振り返り、大学での取組等、貴重なお話をお聞きすることができた。	実際は、1年生では具体的にまだ商業科目を学習していないので、7、8時間授業をいただき、どうにか実施できた。



■ 地域素材を活用した数学の授業



■ 地域素材を活用した商業の授業



■ 地域素材を活用した国語の授業



■ 地域素材を活用した英語の授業

1-6 ルーブリックの改善

昨年度の評価検証から、学びアドバイザーである長崎大学藤井先生の助言をもらいながら、本校活性化ミーティングにて、ルーブリックのブラッシュアップを行った。

■昨年度のルーブリック

育成を図る資質能力	テーマ設定力	課題発見力	論理的思考力	コミュニケーション力 (傾聴・対話・発信)
評価基準	①現状分析がしっかりできているか	②フィールドワークの効果がえられるか	③今後の展望（提言・実践）が明確か	④パワーポイントに見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か
評価の観点	思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動1：省察・評価）	学びに向かう力・人間性等（レジリエンス能力）	論理的思考力・判断力・表現力等（メタ認知的活動2：「計画」部分）	知識・技能（プレゼンテーション技術）・思考力・判断力・表現力等（リーダーシップ・対話力・協調性などの社会的能力）
段階（規準）				
1	現状を語るができている。	フィールドワークの内容について話すことができている。	これから行おうとしている予定を表明することができる。	パワーポイントのスライドを、規定に沿ってつくり、発表することができる。
2	現状とそこに至るまでのプロセスを断片的に語るができている。	フィールドワークの内容と、その成果について話すことができている。	これから行おうとしている予定を具体的に表明することができる。	文字の大きさや色などを変えて「見やすさ」に工夫を加えることができ、時間内に発表することができる。
3	現状と、そこに至るまでのプロセスを、一連のストーリーとして語るができている。	フィールドワークの内容とその成果および課題について話すことができている。	残り期間で現実的に可能な展望（提言・実践）を具体的に表明することができる。	図や表なども使った視覚的な工夫を加えたパワーポイントスライドを作成でき、かつ原稿にあまり目を通さずに発表することができる。
4	現状と、そこに至るまでのプロセスを語ることも、その要因がどこにあるのかについて言及・表明することができる。	フィールドワーク前の仮説に基づいて、その内容・成果・課題について整理し話すことができている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果があると想定できる活動について、道すじを立てて、具体的に表明することができる。	パワーポイントのスライドに加え、話し方にも工夫を加えて、聴衆を引きつけようと努め、顔を見ながら行うことができる。
5	達成目標を前提に、現状までのプロセスを言語化・可視化し、到達している点と追加検証を加える必要がある点を明確にできている。	フィールドワーク前に仮説に基づいたデータ検証や、現地直視した課題に今後向かうとする姿勢が明確に表明できている。	残り期間で現実的かつ地域課題の解決に向け効果のある具体的な提言等、および自分たちおよびその周囲が持続可能な形で実践に参画できるようにするための方略を道すじを立てて、表明することができる。	視覚情報としてのパワーポイントと、発表の発言内容との役割を明確にし、聴衆である生徒に対し対話を促しながら相互に考え、説得力を持った発表を時間内で行うことができる。

■今年度のルーブリック

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度	
育成を図る資質能力等	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力
評価規準	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができるか	②パワーポイントやポスターに、見やすき等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができているか	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望（提言・実践）が明確か	⑥課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか	⑦課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか
段階(基準)							
C	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識について、まとめることができていない。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができていない。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できていない。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できていない。	課題研究活動の成果と課題を示すことができていない	自分の将来について考えることができていない。	ふるさとに貢献しようとしていない。
B	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめようとしている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫をしようとしている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示そうとしている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。
A (ふつう)	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができる。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できています。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解できています。	課題研究活動の成果と課題を示すことができます。	自分の将来について考えることができます。	課題研究活動が、ふるさとに貢献しようとする態度につながっている。
S	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、 <u>比較・分類</u> ができています。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、 <u>時間内にかつ原稿をあまり見ずに聞き手を見ながら発表</u> ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解でき、 <u>協働</u> ができています。	課題研究活動の成果と課題を <u>道すじを立てて表現</u> することができています。	具体的な進路について深く考え、 <u>キャリア形成(進路実現)と結びつけた課題研究活動の計画を立て</u> ている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して <u>地域に説明でき</u> ており、 <u>それが実践活動まで結びつ</u> いている。
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た情報や知識をまとめ、 <u>比較・不要の取捨選択</u> ができています。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、 <u>身振り手振りを加え、時間内にかつ原稿に目を通さずに聞き手を見ながら発表</u> ができています。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた <u>実現可能な課題研究</u> テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なった考え方の他者を理解でき、 <u>リーダーシップを発揮</u> しながら、 <u>協働</u> ができています。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を道すじを立てた <u>将来の展望を表現</u> することができています。	具体的な進路について深く考え、 <u>キャリア形成(進路実現)に向けた計画を立て、その実現に向けた課題研究活動</u> ができています。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して <u>地域に説明でき</u> ており、 <u>何度も実践活動にチャレンジ</u> できている。

(1) 昨年度の課題

- ・評価規準の標記が生徒にとって難しすぎて、自己評価を行うことが難しい。
- ・ルーブリックによる生徒の自己評価を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。また、ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させていく。
- ・ルーブリックを生徒や地域の関係者と共有し、評価に生徒の考えを反映させ、生徒にとって分かりやすいルーブリックを作成する。

(2) 今年度の改善と成果

- ・生徒（2年生）に自身が「身に付けたい力」に関するアンケートを行い、それらの結果を元に、「7つの育成を図る資質能力（①情報理解・収集力、②プレゼンテーション力、③テーマ設定力・課題解決力、④コミュニケーション力、⑤論理的思考力、⑥キャリア形成力、⑦ふるさと貢献力）」をピックアップすることができた。（生徒の声をルーブリックによる評価に反映できた。）
- ・従来の「難しい専門用語」を生徒や地域にも理解しやすい言葉で示したものにブラッシュアップを図ることができた。
- ・生徒の自己評価を毎回の活動後に実施できた。これを数値（SS～C ランク）で示すことによって、ランクが上がったり、下がったりする生徒へ教員が声掛けをするタイミングがわかりやすくなった。

* 今年度の検証については、p 62～p 64で説明する。

1-7 松浦高校における事業の管理

地域科学科における、「資質・能力」の育成を目指した各教育活動の充実及び各教育活動の関連性の強化を図るため、PDCAサイクルに基づく組織マネジメントを以下の体制で推進した。

①地域科学科・活性化ミーティング

校長、教頭、プロジェクトリーダー、コーディネーター等

②地域科学科・プロジェクトチーム

プロジェクトリーダー（主・副）、コーディネーター、各学年の担当者等

【成果】

- ①各教育活動の関連性を強め、「資質・能力」を育成する活動としていくための企画・調整（カリキュラム・マネジメント）の推進を図った。
- ②各学年の「年間計画表」を策定
 - ・活動単位ごとに身に付けさせたい「資質・能力」を明示し、活動の目標を明確化した。
 - ・年間計画に基づいた実践について検証・改善を行った。
 - ・12月以降は、「まつナビ・プロジェクト」の年間計画の見直しをはじめ、外部機関等の専門家にも助言をもらいながら、令和6年度の計画を作成した。
- ③具体的な活動内容や目的の共通理解とマインドセットを行うために、毎週木曜日にプロジェクトチームのメンバーに管理職を加えた意見交換等を実施し、まつナビ・プロジェクト活動の充実を図った。

【課題】

- ①活性化ミーティングのメンバーが各学年の中心となり、活性化ミーティングでの検討内容を各学年担当者に浸透させること。
- ②各教育活動の目標を各学年担当者間で共有しながら、教育活動を推進していくこと。
- ③教員間の意識やファシリテート能力に格差があること。

【次年度への反映】

- ①まつナビ・プロジェクトを中心とした学びの持続可能性を高めるため、活性化ミーティングを中心とした校内体制を校内に根付かせる。
- ②活性化ミーティングにおける、普通科改革に係る各事業や実践について、それぞれの区切りごとに検証を行う。
- ③生徒の自己評価等にもとづいて、各教育活動の改善案を検討する。
- ④運営指導委員会・コンソーシアム会議における意見等を踏まえ各教育活動の改善案を検討する。
- ⑤活性化ミーティングの内容を全教員にフィードバック（情報提供）し、活動の目的の目線合わせを行う（スキル格差を小さくする）。
- ⑥地域や生徒と学校の三者協議会の実施（ルーブリックのブラッシュアップ）。

■資料（例） 9月14日のまつナビ・プロジェクトチームによる活性化ミーティング資料

第15回 MNP チーム 活性化ミーティング 令和5年9月14日	校長	3学年 主任	2学年 主任	1学年 主任	記
出席：【活性化ミーティング】					

[議 題]

1. 昨日の振り返り

(1) プレまつナビ … 発表データは1つのタブレットに集約する。

今後…①まつナビ用のタブレットを準備する

②まつナビ用のビデオカメラを購入できないか

③動画は生徒たちに交代で撮らせてはどうか⇒教員が編集せずすぐに Teams を通じて該当生徒（班）へ渡せる。まつナビ専用タブレットに保存し、年度別に発表動画を蓄積していく。（個人タブレットだとそれができない）

(2) まつナビ … プレまつナビの反省を生かして。動画の撮り方

（ただし、念のために全体を撮るカメラは必要）

現在、22名の外部の方が訪問予定

評価員は、①〇〇〇〇先生（鎮西学院大） ②〇〇〇〇さん（KUNUGI）

③〇〇〇〇さん（SFC） ④〇〇〇〇さん（商工会）

⑤〇〇〇〇先生（県立大）でどうか？

講評は運営指導委員会の座長でもある〇〇〇〇先生でどうか

(3) ポストまつナビ … 総務省政策アイディアコンテストに「廃油の活用」を出す。

10月上旬に提出（書類審査を通れば、12月にオンライン発表）

2. 来週の活動

(1) プレまつナビ … 校内発表会参観

(2) まつナビ … 校内発表会

(3) ポストまつナビ … 論文原稿締切：12月23日 ⇒ 製本へ

*生徒の活動のようすの撮影（写真）をお願いいたします。⇒ HP、報告書へ

3. 今後の活動

(1) 個人構想キックオフ講座（1年生）…10月4日（水）14：05～

伊万里市 〇〇〇〇さん

(2) 課題研究発表会（2年生）…10月25日（水）13：00～

(3) 各種データ

まつナビ・プロジェクト① ⇒ R5MNP ⇒ R5まつナビ ⇒ 0927 校内発表会

2 実施計画Ⅱ

2-1 活動目標

中学校、大学等との協働による地域活性化への貢献

2-2 実施計画

地域及び学校活性化を図る教育活動等への支援体制（コンソーシアム等）の構築・充実

2-3 運営指導委員会

(1) 運営指導委員会の体制

所属	氏名	主な実績
無	佐々木 龍二	前長崎大学サテライトオフィス松浦コーディネーター、元松浦市立中学校長
長崎県立大学	本田 道明	学長補佐
鎮西学院大学	加藤 久雄	現代社会学部 教授
西海みずき信用組合	前田 幸輔	地域振興室長（前日本政策投資銀行）
自営業	川浪 剛人	前まつうら創生推進室長
県企画部政策企画課	小柳 正典	企画監

(2) 運営指導委員会の取組

①第1回：令和5年5月26日(金) 14:00～15:30 松浦高校会議室

〈委員からの主な意見〉

- ・中学校との連携もループリックにあったら良いのでは。
- ・ループリックは3次元的に作成したほうがわかりやすいのでは。
- ・生徒が作成して松浦市に申請する支援金の申請書は作成だけでなく、プレゼンを絡めると良いのでは。報告書までを一つのパッケージにできれば良い。将来的に支援金の支援先が、市から応援団になると面白い。
- ・サイバーセキュリティボランティアは、小学校だけではなく、高齢者施設などにも訪問し、地域コミュニティができないか。松浦の地域資源として音楽隊などもある。
- ・仕事図鑑は地域連携教材としてよい。ただ、誰に読んでほしいのか。中学校との連携を意識して、中学生向けにしてはどうか。

②第2回：令和6年2月8日(木) 10:00～12:00 松浦高校会議室

〈委員からの主な意見〉

- ・グローバルな視点での学びの弱さを克服させるには、地域に住む外国人に注目するのもいいかもしれない。
- ・ボランティア活動で成果を出すためには、伝統芸能に取り組んだり、吹奏楽部で参加したり部活動単位でも考える。また、一時的なものではなく継続的な活動にする。
- ・仕事図鑑についても、完成で終わりではなく、フォントは読みやすいのか、最後の写

真は説明が必要ではなかったのか、など自己満足で終わらない問いかけが必要。

- ・論理的思考の向上については、思考フローを書かせ、考えや関連性を図化させるとよい。
- ・探究スキルを身に付けることは経験値を上げることしかないように考える。座学的なスキル学習をすることも重要であり、学習の後に使って実感させることも必要。

【次年度への反映】

- ・論理的思考力を向上させるために、大学等の協力を得ながら、「思考フロー」を文章化、図化させるための講座を実施する。
- ・探究スキルを身に付けさせるために、年間活動計画の見直しを行い、1年生は講演会や研修会后、2年生では各種発表会のあとの振り返りについて十分な時間を確保する。

2-4 コンソーシアム会議

(1) コンソーシアム会議の体制

所属	氏名	主な実績
松浦市	友田 吉泰	市長
松浦市議会	谷口 一星	議長
松浦市教育委員会	黒川 政信	教育長
松浦市小中学校校長会	年徳谷辰也	副会長（志佐中学校長）
松浦市商工会議所	稲沢 文員	会頭
松浦高等学校PTA	川下 高広	会長
松浦高等学校同窓会	藤田 英敏	会長
長崎大学教育学部	藤本 登	学部長
長崎県立大学地域創造学部	バロリ・ブレンディ	講師
株式会社エミネントスラックス	前田 周二	代表取締役社長
松尾農園	松尾 秀平	代表
長崎県教育庁高校教育課	田川耕太郎	課長

(2) コンソーシアムの取組

①第1回：令和5年6月13日（水）14：00～15：30 松浦高校会議室

〈構成員からの主な意見〉

- ・ループリックがよくなった。自己評価を一つ上のステージに上げるためにどのようにしていけばいいか。また、大学との連携案で大学生との伴走をする場を教員がどのようにつくるのが課題。
- ・まつナビのテーマがこれからの社会のいろいろなところで必要になっていることを生徒が理解できているか。

- ・職員研修をOJTで行うのであれば、年間計画に入れなければならない。企画は県の教育センターや大学と連携していくことも可能ではないか。子供たちがどのような力を身につけるために学んでいるのかわかる工夫をしなければならない。
- ・教員が地域のことを知らないことも多いので、知ろうとする経験は大切である。
- ・新時代のまつナビになっている。まつナビの活動で地域を科学するなかで、研究指定校に選ばれた。生徒たちがまつナビを通して自分の将来につなげることができればよい。面接、就職、コミュニケーション力、申請書を作る能力など。しかし、幅を広くしすぎると、子供たちがどうすればいいかわからない。そこで、市が力をいれていることとつなげて絞り込むこともあっていいのではないか。

②第2回：令和6年2月8日(木) 14：30～16：00 松浦高校会議室

〈構成員からの主な意見〉

- ・子どもの情報はスマホから多いので、気になることや興味のあることしか検索しない。グローバル視点での学びの弱さの原因はここにあるのかもしれない。
- ・「探究性を高める」ことは、アンケート結果を見ても課題だと思う。
- ・ルーブリック評価が素晴らしい。指導と評価の一体化ができる。
- ・探究に向かう力。与えられたものに向かうのではなく自分事として考える力が必要。与えられたものでは面白くない。パフォーマンス評価やクエスト課題を活用すればよい。
- ・探究性を高める根幹は我慢強さなどの非認知能力を高めるような体験活動をする必要がある。自然体験活動などから問いを生むことも有用。
- ・松浦高校と小中学校が目指すところと一緒にいる。中学校との連携で中学生も刺激を受けている。小学生にも連携をしてもいいのでは。
- ・校則見直し委員会のように、自分たちが出した意見で学校が変わるという経験は、コミュニケーション能力やどういうメリットを提示しようか等、探究の下地になる。

【次年度への反映】

- ・生徒の活動を単なる提案に終わらせず実践活動にまでつなげ、最後までやりきるような活動計画を考える。
- ・探究性を高めるために、まつナビ・プロジェクトだけでなく、各教科で「問い」を生み出すような授業研究や改善を行う。

2-5 学校外の組織等との協働

(1) 中高連携

①志佐中学校との合同講演会・ワークショップ

○日時：令和5年11月8日（水）14:05～15:45

○目的：・講演を通じて、生徒のキャリアプランニングの視野を広げ、将来の夢や自らの在り方を考え、ワークショップを通じて、対話の楽しさや自らの考えの深まり・広がりを実感する機会とする。

○内容：ワークショップ

・生徒が中心となって行った。（話し合う内容の決定・当日の講演会・ワークショップの進行など）

・メンバー：生徒会役員の1年生（5名）、2年生（4名）

・事前に日賀さんと2～3回オンラインで打ち合わせを行い、テーマを決定した。

○対象：松浦高校1・2年生と教職員、志佐中学校1・3年生と教職員

○講師：株式会社ハッシャダイ 代表理事 勝山 恵一 氏

有限会社ペンダコ 代 表 日賀 優一 氏



②地歴公民科地域課題の解決に取り組む「地域素材授業」（地歴公民科）

○日時：令和5年11月10日（金）13:30～15:30

○目的：地域調査の手法を学ぶと同時に、松浦市の良さを発見する機会とする。

○内容：

12:45～13:00 本校地歴公民科教員と事前打合せ

13:10～13:30 導入・活動内容説明

13:30～14:30 志佐中生との合同地域調査

14:40～15:30 指導助言

○対象：松浦高校1年生 志佐中2年生+社会科、地歴公民科教員等

○指導助言：長崎大学 人文社会科学域 大平 晃久 准教授



②外部イベント参加

- | |
|-----------------------------|
| 6月：平戸市「軽トラ市」(まつナビ「イベント開催班」) |
| 8月：こども食堂(まつナビ「子育て探究班」) |
| 11月：松浦マーケット(まつナビ「お菓子開発班」) |
| 12月：松浦こども博(有志：全学年から20名) など |

(4) まつナビ支援金制度

生徒のまつナビ活動を経済的に支援することを目的として、松浦市より以下の条件等で上限額3万円程度の班活動費の申請ができる制度である。なお、生徒は次のページに示す「申請書」を作成し、担当教員のチェックを受けた後に、校長及び松浦市長へ提出して選考、支給される。

①支給対象

松浦高等学校の「まつナビ」の中で、地域課題解決や地域活性化のためのプロジェクトに取り組んでいるグループもしくは個人

②支給条件

申請書を提出の上、生徒による提案が、松浦市長及び松浦高等学校長から認められた場合に支給する。なお、申請にあたっては、必ず担当教員と相談の上、提出する。

③支給額

1つのプロジェクトへの支給上限額：30,000円(予算上顎30万円)

④支給方法

担当教員が、物品購入伺いを提出することで支給。

⑤申請方法

申請用紙に必要事項を記入し、担当教員の承認後、まつナビ担当に提出する。

⑥申請日

随時申請を受け付ける。申請が出てきたものを、月に1度程度のペースで松浦市及び松浦高等学校にて審査を行い、承認を受けた団体へ随時支給する。

⑦申請内容

- ・プロジェクトの概要及び目標
- ・申請の目的
- ・支給金の使途
- ・申請金額と内訳

⑧選考

申請のあったプロジェクトの中から、以下の条件を考慮して支給限度額内で選考する。

- ・地域課題解決や地域活性化のためのプロジェクトであること
- ・計画の緻密性
- ・予算支給の必要性

⑨結果通知

プロジェクト担当者より、担当教員へ文書にて通知する。

■今年度の実績例

令和5年度 まつナビ支援金 申請書

令和5年7月24日

松浦市長 様
松浦高等学校長 様

申請者名 〇〇 〇〇
担当教員 〇〇 〇〇 印

下記のプロジェクトについて、「まつナビ支援金」を申請します。

記

申請グループ名	まつナビ10班
解決したい課題等	松浦市の空き家問題を解決すること。 学生が集まる場所が松浦市にはない。
プロジェクトメンバー名	(年・組・番号・名前) 2年1組 〇〇 〇〇 2年3組 〇〇 〇〇 2年2組 〇〇 〇〇
プロジェクトの目的	松浦市を元気にすることと、若者が集まれる場所をつくる。また、松浦市の空き家問題の解決策を考えることを目的としている。
プロジェクトの内容・計画	・松浦市には現在2000戸以上の空き家がある。これを使って学生が無料で集まったり、待ち合わせをしたりする場所を作りたい。 ・松浦市の空き家である旧「寶屋旅館」を訪問。床などがもろく使えそうにないことがわかった。
現在の進捗状況	・空き家の再設計の方法がわからない。 ・ここ何年かの先輩たちの研究を見ても、先輩たちは、最後まで空き家問題について研究した例はなかった（どこかであきらめている） ・私たちはあきらめたくないで、何かヒントをもらいたい。
申請金額	10,000円
支援金を必要とする理由	慶応義塾大学未来構想キャンプに参加して、空き家の再設計の手法などを学びたいから。
支援金の用途(具体的に)	宿泊代、フィールドワーク代等の参加費
プロジェクトの協力者・協力団体	NPO法人〇〇〇〇

(5) 学校外の組織等との協働における成果検証・評価

【成果】

- ・地域科学科の生徒（1年生37名）が、松浦市立志佐中学校3年生の地歴公民科（地理総合）の授業「地域調査」に参加する機会を設定し、中学生とともに「松浦市志佐地区」のフィールドワークを行った。
- ・看護師または保育志望者を中心として夏休みに乳幼児ふれあい体験を行った。
- ・松浦中央病院と松浦消防署との合同演習「大規模災害訓練」に生徒が参加し、地域の防災意識に対する興味・関心を高めた。
- ・長崎県立大学での一日大学生体験において、生徒による説明や教授の授業を通して、研究方法を学び、生徒のキャリア意識の高揚を図ることができた。
- ・2年生は長崎県立大学との連携による中間発表会を実施し、大学生から直接アドバイスをもらい研究の方向性を確かめた。
- ・生徒が外部の様々な研修会に参加した。
- ・松高学び場をよく利用していた生徒が、総合型選抜試験や推薦型入試で国公立大に合格できた。

【課題】

- ・地域の事業所等、連携先が限定的である。
- ・大学生や卒業生（まつナビサポーター）の活用が限定的・一時的である。
- ・学校外の組織等との協働した取組が計画的・継続的なものとなっていない。
- ・外部コンテストで賞を取るための研究まで至っていない。

【次年度への反映】

- ・医療機関だけでなく、生徒一人ひとりのキャリアプランに応じた連携先を開拓する。
- ・生徒のキャリア形成力の向上という観点から、外部との連携の目的を明確にしながら、まつナビ・プロジェクトの年間計画を作成する。
- ・生徒が外部コンテスト等へより積極的に応募して、外部からの評価を得られるように、研究テーマに応じたコンテストを紹介する。

2-6 コーディネーターの活動内容（大内康仁 氏）

(1) 令和5年度 学校説明会・オープンスクール、サイバーセキュリティボランティア等の活動実績

月	市内小・中学校校長会	オープンスクール 市内での学校説明会 (生徒・保護者向け)	市外での 学校説明会等	●進路担当者面談 ●交流授業 ●校内研修	サイバーセキュリティ ボランティア
56	○小中校長研修会での 学校経営説明：6/9 ○学校説明会（松高） ：6/21	○福島中：5/25 ○御厨中：6/27（生徒） ○今福中：6/28 ○調川中：6/30 (生徒・保護者)	○吉井地区：6/22 ○平戸地区：6/19 ○伊万里市立国見中 ：6/27		
7	○小中教頭研修会での 学校説明：7/14	○御厨中：7/3（保護者） ○志佐中：7/7 (生徒・保護者) ○オープンスクール① ：7/26		○福島中：7/28 ○調川中・鷹島中 ：7/31	○志佐小：7/10 ○志佐中：7/18 ○御厨中：7/29
8				○今福中：8/8 ○御厨中：8/18 ○志佐中：8/31	
9				○御厨中：9/21	
10		○オープンスクール② ：10/14 ○鷹島中：10/11 ○調川中：10/13 ○調川中が松高文化祭に 出店：10/14 ○志佐中：10/24			
11				○志佐中との生徒 向け合同講演会・ 研修会：11/8 ○志佐中との交流 授業：11/10	○福島中：11/2 ○今福小：11/8 ○調川中：11/13 ○上志佐小：11/14 ○福島養源小：11/17
12					○平戸中：12/11 ○青島小中：12/12 ○星鹿小：12/13 ○今福中：12/15
1		○御厨小：1/16			○平戸市田助小 ：1/19
2		○志佐小：2/14 ○調川小：2/20			
3					

(2) R5「高校コーディネーター全国プラットフォーム事業/文部科学省委託事業」経過報告

○研修目的

よりよい教育を通じたよりよい社会づくりに向け、関係機関等との連携・協働による高等学校の特色化・魅力化及び人づくり・つながりづくり・地域づくりに従事する専門人材の育成。

○参加者

指定校の高校 CN、高校教諭、指定校以外で参加を希望する高校 CN、管理機関職員

○研修内容

- 7 / 13. 14 対面研修① 「協働体制構築の基本のキ」
- 8 / 22 オンライン研修① 「社会に開かれた教育課程と協働体制づくり」
- 9 / 8 オンライン研修② 「総合的な探究の時間と新学習指導要領から進路へ」
- 10 / 5 オンライン研修③ 「カリキュラム・マネジメント」
- 11 / 21 対面研修② 「総合的な学習の時間のコーディネート」

- 12 / 11 オンライン研修④ 「協働論と学習論」
 1 / 10 オンライン研修⑤ 「社会資源、地域資源の発掘方法」
 2 / 21 対面研修③ 「1年間のふりかえり」 ふりかえり方法

○研修記録

1 対面研修① 島根

- ・協働するために必要なことを考えるワークショップ
- ・コミュニケーションのタイプを知る
- ・他者を知るための方法 「聴く」
- ・先輩 CN カタリ場 等

2 オンライン研修①

講師 菅野 祐太氏

兵庫教育大学教育政策リーダーコース准教授（岩手県立大槌高等学校カリキュラム開発等専門家）

「社会に開かれた教育課程と協働体制づくり」

① 「なぜ社会に開くのか？」

教育の目的や学習指導要領を紐解く

② 「学校と社会を開くとはどういうことか？」

コミュニティースクールなど協働体制の方法を理解する

- ・「教育の目的」について

2つの視点

- ・国と地域の文化を伝えていく（社会の中で必要な力）
- ・子どもたちの可能性を伸ばすための必要な力を育む（人格の完成）

- ・学習指導要領から

自らの学校・地域の実情に合わせて個別最適な解答を考える

- ・大槌高校の事例

大槌高校は本当に大槌町に必要なのか？

3 オンライン研修②

講師 浦崎太郎氏（大正大学 地域創生学部教授） 中村玲詞氏（島根大学教育センター准教授）

① 「総合的な探究の時間とは何か」～新学習指導要領をふまえて理解する

「探究」・・・調べ学習で得た新たな疑問をもとに新たな課題を見つける学びが探究型思考となる。「収集した情報をもとに新たな問いが生まれないだろうか」と主体的に考えることで、調べ学習が探究的な学びになっていく。探究的な学びは情報・知識をどのようにして得るかがポイント。机上だけでなく、フィールドワークや様々な体験を通した（人 もの こと）との出会いから「誰かの役に立つ・喜ばれる」を通して得る情報・知識が重要。地元を基盤としたフィールドワークや様々な体験をすると、より将来の進路や人生に影響を与える自分ごととなる。

○浦崎氏より

- ・探究を軸としたキャリア形成と教科学習
- ・探究に学究性を織り込む重要性
- ・社会的自立に向けた学校の役割
- ・新学習指導要領と高大接続
- ・大学進学や社会的自立に向けた探究手順
- ・地域探究と教科をどうつなげるか？

② 「総合的な探究の時間」を「社会につなげる」とはどういうことか

○中村氏より

- ・生徒本人が興味・関心を持てるものは何か
- ・テーマ設定 ・ ・ 出会いとマッチングが重要 そのために個別対応が不可欠
- ・地域に出てやりたいことを探る機会、生徒自身が社会とかかわる機会をつくる。

4 オンライン研修③

講師 : 大阪教育大学 田村知子

「カリキュラム・マネジメント」

○カリキュラム・マネジメント理論に基づいて取り組んだある高等学校の課題解決過程

○J. ハッティ Hattieのメタ分析の理論

学校の達成を最大化するのは、1 教師の信用性 2 自己効力感 3 協働学習

○三者面談のあり方

生徒に学びの様子をプレゼンさせる→これについて保護者、教師が質問する

A-A-Rサイクルを回す

Anticipation 見通し Action 行動 Reflection 振り返り

- ワークショップは、個人の自律性に基づく組織化を促す、合意形成や協働のためのツール
→ 相手への「信頼」が基盤

- カリキュラム・マネジメントのポイント

「つながり」をつくろう・・・カリキュラムの中に 人と人との間に
生徒の学びをよく見つめて、生徒の姿と教育活動の関係を語り合おう！
ともに学びづくりをする仲間を増やそう！

5 対面研修② 福島

「総合的な探究の時間のコーディネート」

会場：福島県立未来学園（〒福島県双葉郡広野町中央台

内容：「社会に開かれた教育課程を実現するための場づくりと生徒伴走」

講師：福島県立未来学園高等学校教諭 林裕文

6 オンライン研修④

講師：東京都市大学大学院 環境情報学研究科 教授 佐藤真久

「VUCA社会に対応し持続可能な社会を創る」

～ 複雑性に向き合い、学習と協働の往還による探究モードへの挑戦

課題図書『ソーシャル・プロジェクト 12 ステップ』を読み、これまでのシリーズ研修プログラムも踏まえて、
自身の有するコーディネーター像について、変わったこと、変わらなかったことについて考える。

7 オンライン研修⑤ 「社会資源、地域資源の発掘方法」

講師 国立教育政策研究所 志々田まなみ

「学校と地域・社会の協働」

～ 生涯学習の理念から、学校と地域・社会の教育的な役割を理解する

「地域・社会との協働がすすんだ学校とは？」

- ①保護者や地域住民等の意見・アイデアをもとにした活動が積極的に実施される学校
- ②郷土や地域課題に関する学習、地域貢献活動等を積極的に実施している学校
- ③生徒と地域の人が交流したり、一緒に活動する機会・場を積極的にもうけている学校
- ④地域からの学校支援ボランティア活動により教育の充実・改善が進んでいる学校
- ⑤企業・大学等と連携して専門性の高い教育や実習を実施している学校
- ⑥地元の産業やコミュニティの発展を担う人材育成を強く意識している学校
- ⑦地域に必要な不可欠な存在として信頼され、支えられる学校

8 対面研修③ 東京 「1年間のふりかえり」

目的：よりよい教育を通じたよりよい社会づくりに向け、関係機関との連携・協働による高等学校の特色化・魅力化
及び人づくり・つながりづくり・地域づくりに従事する専門人材の育成

2/21 13:00～ 文部科学省東館 3 階講堂

テーマ：「1年間で仲間と一緒に振り返り、次の一手を考える」

2/22 13:00～文部科学省東館 3 階講堂

テーマ：高校コーディネーターの導入が高校改革、高等学校の特色化・魅力化を推進する効果があることを広く普及・発信する

(3) 市内小中学校との連携における成果検証、評価

①中高連携授業や学校説明会の実施

【成果】

- ・市内の小・中学校校長研修会と連携を図り、各校での生徒及び保護者向け学校説明会を実施するとともに、各中学校の進路指導担当者や担任との意見交換を行った。
- ・松浦市外の中学校を訪問し、昨年よりも早い段階から多くの学校説明会を実施した。
- ・中高合同の講演会・研修会を実施でき、中高生の企画・運営チームでその内容を検討することができた。

【課題】

- ・ 中学校教員とのより密な情報交換を行うこと。
- ・ 中学生の保護者に対する地域科学科の魅力を浸透させること。

【次年度への反映】

- ・ 教科指導に関する中高が連携した研修会および公開授業の実施。
- ・ 小・中学校教員および保護者向けの説明会の効果的な開催。
- ・ 小学校教員および保護者向けの説明会の効果的な開催。

②松高生による課題研究発表会の参観

【成果】

- ・ 2年生による課題研究発表会を、地域科学科1年生全員が参観した。また、市長、市教育長、市議会議員および市役所職員、本事業管理機関等が参観した。
- ・ 校内における中間発表会を含めて、発表会に地域住民や大学生等を招いて継続的な指導・助言を受けられる体制を構築する。

【次年度への反映】

- ・ 各中学校に生徒が出向いて行き、研究内容を発表する場を設定する。
- ・ 課題研究発表会を幅広く地域住民に公開する。
- ・ 課題研究について中学生と意見交換できる場を設定する。

(4) 地域との連携における成果検証、評価

①松浦商工会議所青年部（松浦YEG）との連携

【成果】

- ・ 松浦市で起業している若手事業者と生徒との交流の機会をつくり、生徒が起業家の「郷土松浦」への思いや実践事項を知る機会となった。
- ・ 若手事業者との交流の場を設けたことで、生徒の学びたいこと（知りたいこと）を課題の設定につなげることができた。

【課題】

- ・ 生徒が地域協働を進めるための事業所等とのマッチングがまだ不十分。

【次年度への反映】

- ・ 松浦YEGとの連携を密にし、学校行事とも連携を図りながら、「松浦こども博」の運営への生徒の参画を円滑に進める。
- ・ 地域連携による松浦高校と地元の大人の関わる人数をさらに増やす。

②「まつうら高校応援団」の活動に向けた協力依頼

【成果】

- ・ 令和5年3月に設立し、「まつナビ・プロジェクト」の充実、特に課題解決の過程において、生徒が地域の人材から直接助言を得られるようになった。

【課題】

- ・ 「まつうら高校応援団」の関与が限定的である。

【次年度への反映】

- ・生徒が地域の課題を見出すための情報を提供してもらったり、課題の解決に向けた助言を受けたりする機会を設ける。
- ・「まつうら高校応援団」に加盟している地元企業等でのインターンシップの継続実施。
- ・「まつうら高校応援団」に加盟している地元企業等に対して、「まつナビ」のテーマ等の情報を積極的に提供し、より一層の協力を依頼する。

2-7 新学科設置の関係者への説明及び成果普及のための活動実績

(1) 生徒・保護者対象

【成果】

- ①近隣の中学校を対象とした学校説明会、地区別相談会等とおした地域科学科の学びの特徴に関する説明及び質疑応答とおした疑問解消の取組。
- ②中学校の社会科の授業(地域調査)等に地域科学科の生徒が参画した合同授業の実施。
- ③文化祭やオープンスクールにおける生徒による「まつナビ」の実践発表及び地域科学科の特色の説明。
- ④ホームページや学校だより等による地域科学科に関する情報発信。
- ⑤コーディネーターと中学校との連携を密にした情報交換。

【課題】

- ①地域科学科の理解を深めるために中高の教員間の情報共有の機会を増やす。
- ②地域科学科に対する中学生の理解を深めるために、中学生と高校生の合同授業や探究活動のコラボレーションの機会を増やす。

【次年度への反映】

- ①地域科学科における学びの魅力を、中学生や保護者にもわかりやすく具体的に継続的に説明していく。
- ②市内中学生に意識調査等を実施し、本校が「選ばれる学校」になるための継続的な分析等を行っていく。
- ③小中学校での「まつナビ・プロジェクト」の説明会において、生徒が取組の内容を説明することにより、本活動の成果の普及を図る。

(2) 地域住民等対象

【成果】

- ①ポスターやチラシなどを使った「地域科学科」の周知徹底(松浦市役所発行の市報とともに松浦市内の全世帯に毎月配布)

- ②地域課題解決型学習「まつナビ・プロジェクト」を活用した情報の発信
- ③管理職、コーディネーター等が継続的に中学校訪問を行い、地域科学科の取組について丁寧に説明を行った。(特に進路実現に向けての体制とカリキュラムについて)
- ④令和5年度入試と比較して、令和6年度の地域科学科の志願者18人増加した
(R5:34人、R6:52人)

【課題・次年度への反映】

- ①「まつナビ・プロジェクト」の成果・普及をとおして入学志願者増に結びつける。
- ②「まつナビ・プロジェクト」発表会を地域住民等にも一般公開する。

(3) 県内外の自治体・学校対象

- ①県内県立高校9校とネットワークを構築し、研修会を実施
- ②九州地区普通科校長会での実践報告
- ③本校を訪問した以下の教育委員会・高校に新学科の状況について説明

6月21日(水)	大阪府教育委員会	佐賀県立鹿島高校
6月26日(月)	愛媛県市東温高校	
10月12日(木)	愛知県立美和高校	
10月25日(水)	大阪府立長尾高校	
11月8日(水)	佐賀県立白石高校	
12月1日(金)	愛知県立惟信高校	
12月14日(木)	兵庫県立千種高校	
2月13日(火)	鹿児島県立指宿高校	
2月15日(木)	鹿児島県立大島高校	
2月16日(金)	鹿児島県立大口高校	

2-8 国の指定終了後の取組継続のための仕組みづくりに関する取組

【成果】

- ①本事業の指定校となり、生徒の幅広い課題研究活動が可能となっている。また、松浦市や地域の事業所等の職員が生徒の活動に伴走したり、アドバイザーとして専門的な助言をくれたりしている。
- ②松浦市長を中心としたコンソーシアム会議等、地域を巻き込んだ協力体制や生徒の教育活動を支援する持続可能なシステムは構築されている。

【課題】

- ①特定の事業所に、生徒の活動が限定されている。
- ②学校(生徒)と地域との協働活動におけるマッチング体制の構築。
- ③令和7年度以降のまつナビ・プロジェクト推進のための組織及び生徒の活動費の確保。

【次年度への反映】

- ①構築できたコンソーシアムの維持・発展させるため、本事業が終了したあとの令和7年度からコミュニティスクール(学校運営協議会制度)に移行する。そのための調査・

研究を行い、導入に向けた準備を進める。

- ②「まつうら高校応援団」の活動を軌道にのせ、地域からの支援を幅広く受けられる体制づくりを進める。
- ③プロジェクトチームによる意見交換等を実施し、具体的な活動内容や目的の共通理解及びスキルを身に付けさせるための指導法の向上や生徒に伴奏するマインドセットの醸成を図り、まつナビ・プロジェクト活動の充実を図る。
- ④令和7年度以降の運営指導委員会・コンソーシアム等の組織の在り方および予算措置についての検討をはじめめる。
- ⑤「まつナビ・プロジェクト」に係る生徒の活動費の在り方について検討をはじめめる。

2-9 他の事業との関係

【成果】

- ①「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の成果を踏まえた継続的な取組の実践。
 - ・ルーブリックのさらなる改善
 - ・小高・中高・高大連携の強化
 - ・「地域に根ざした高等学校」のネットワークの構築
- ②立命館宇治中学・高等学校のWWLコンソーシアムに加盟。
 - ・オンラインなどによる教員間、生徒間交流の機会の設定予定
- ③産業能率大学と探究活動への支援に関する包括連携協定を締結した。
- ④三菱UFJリサーチ&コンサルティングによる「高校魅力化評価システム」を導入し、より客観的なデータによる分析を行うことができた。

【次年度への反映】

- ①「高校魅力化評価システム」による評価結果を精査し、カリキュラム開発の方針に反映させていく。

3 実施計画Ⅲ

3-1 活動目標

県内外の「地域高校」との連携等による学校活性化

3-2 実施計画

県内外の「地域に根ざした高校」のネットワークの構築と協働による、参加各校の活性化

3-3 活動内容

(1)「地域に根ざした高等学校」のネットワークを構築した上で協働研究等を実施

①「地域に根ざした高等学校」ネットワーク第3回研修会/第1回松浦高校市民講座

- ・目的:「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の研修を通じて、学校の魅力化・特色化や探究活動等に関する情報共有を図り、参加校における学校改革の一助とする。
- ・日時:令和5年6月30日(金) 12:40~16:40
- ・講師:岩本 悠氏(一般社団法人 地域・教育魅力化プラットフォーム代表理事)
- ・場所:生徒向け研修会:松浦高等学校体育館
- ・講演(60分):演題「‘越境’と‘探究’による自己開拓 ~新時代のキャリア形成に向けて」

②「地域に根ざした高等学校」ネットワーク第4回研修会

- ・日時:令和5年10月27日(金) 15:00~16:40
- ・講師:菅野 祐太氏(兵庫教育大学教育政策リーダーコース 准教授)
- ・場所:松浦高等学校コモンホール
- ・日程:①高校教育課あいさつ(5分)
- ・講演(60分)演題「アンラーンのすすめ ~学校の魅力化、地域との協働、主体性の育成~」
- ・リフレクション (15分)
- ・質疑応答 (20分)



③高校と地域の協働による魅力ある高校・地域・未来づくりに関する研修会

- ・日時：令和6年1月11日（木） 14:00～16:00
- ・講師：浦崎 太郎氏（大正大学地域創生学部 教授）
- ・場所：松浦高校コモンホール
- ・講演（120分）：演題「負けに不思議の負けなし～知を軽んじて自滅する市町村～」

(2) 生徒間交流

①慶応義塾大学（SFC）未来構想キャンプ

- ・日時：8月2日（水）～3日（木）
- ・主に高校1、2年生を対象とし、坂のまちとしても知られる長崎県では、傾斜地にある空き家を利活用した場を訪問し、実現可能な、かつ高校生らしいユニークな視点をいかした地域の課題解決のための実践知の創造に挑んだ。
- ・「未来構想キャンプ」は、はじめて出会ったもの同士が多様な知識や知恵を出し合い、未来につながる「実行力」について体験的に考えるための場として企画された。参加した本校2年生は、キャンプに集った仲間たちと、答えの決まっていない問題に向き合いながら、コミュニケーションをとることで、柔軟な発想やヒラメキが生まれたとのことであった。



②鹿児島県立大島北高校生とのオンライン交流会（「はしっこ会議」）

- ・日時10月4日（水）
- ・内容：お互いの探究活動の途中経過を報告し、その活動の中で行き詰まりを感じていることや成功事例を共有することで、今後の活動に活かしていく。各プロジェクトのリーダーが参加。

③全国グローバルリーダズサミット

- ・日時：1月21日（土）、22日（日）
- ・内容：宮崎県飯野高校で開催された、グローバルリーダズサミットに本校1年生が参加した。本校の探究活動発表や仕事図鑑サミット、生徒間交流会（フェス）、コカ・コーラ工場見学や道の駅、京町温泉街フィールドワークなどを行った。本校生徒も積極的に活動していた。



【成果】

- ・ネットワーク校だけでなく、市民向けの研修会も開くことができた。
- ・「地域に根ざした高等学校」のネットワーク間の教員研修を通じて、学校の魅力化・特色化や探究活動等に関する情報共有を図ることができた。
- ・学校間の情報共有を通じて、参加者の意識の高揚を図ることができた。

【課題】

- ・参加各校の取組み内容に踏み込んだ情報共有と意見交換の時間設定が不十分である。
- ・参加についてももう少し早い時期から、案内すべきであった。
- ・情報共有後の担当者間での振り返りが不十分である。

【次年度への反映】

- ・松浦市を中心とした会場で担当者間の対面研修会を実施する。
- ・参加各校の生徒による生徒間交流を実施する。

第3章 管理機関の役割

1-1 管理機関における活動実績

■ 実施内容及び日程

実施内容	日 程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①運営指導委員会		○										○
②コンソーシアム会議			○									○
③学校訪問指導 (授業 探究活動 発表会等)	○		○				○	○				○
④ネットワーク研修			○				○					
⑤県外先進校視察			○									
⑥高校との事業進捗確認	随 時											

【成果】

- ①運営指導委員会及びコンソーシアム会議をそれぞれ年2回開催し、事業内容について、特に以下の項目の指導・助言を受けた。
 - ・指導と評価の一体化を目指すカリキュラム開発
 - ・中高連携、高大連携による生徒の資質・能力の育成
 - ・県内外の高等学校との連携による教員・生徒の資質・能力の向上
- ②探究活動や発表会（6月、10月）や、県内他校とのネットワーク研修会に参加（6月、10月）し、事業の実施状況を把握した。
- ③ルーブリックの改善に向けて、生徒や地域の方の関わりや、地域課題探究学習と授業のつながり等について、事業の改善への提案を行った。
- ④先進的な取組等を行っている県外高校を、松浦高校とともに視察し、支援体制についての意見交換を行った。

〔視察先および主な聴取内容〕

- 兵庫県立柏原高校（9月21日）
 - ・コーディネーターの役割や情報共有について
 - ・新学科の設置について 等

【課題】

- ①運営指導委員会およびコンソーシアム会議の運営の更なる充実。
- ②生徒にとってわかりやすいルーブリック作成の支援。

【次年度への反映】

- ①運営指導委員会やコンソーシアム会議での意見を踏まえ、令和4・5年度の課題を学校とともに整理し、最終年度の取組に反映させる。
- ②令和7年度以降の運営組織・支援体制を早期に検討し、事業終了後の方向性や内容の検討を行う。

- ③ルーブリックの作成および改善等の取組について、オンラインでの打合せなど、高校と密に連携を行う。
- ④コーディネーターの活動の充実を図るため、他県のコーディネーター設置校と連携し、情報交換を行う。

1-2 管理機関における事業全体の成果検証、評価

本構想において実現する成果指標は、次の3つである。なお、成果の検証は、生徒へのアンケートおよび生徒のルーブリック評価により行った。

- ①キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率 (%)
- ②発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合 (%)
- ③育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力等）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値

①成果指標：キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率 (%)

○アンケートの質問内容

まっナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを『自分ごと』として考える力（キャリア形成力）が高まったと思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：91.3%（令和5年度成果目標値：90%）

○評価

- ・キャリア形成力が高まった（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は91.3%であり、令和4年度より4.2ポイント上昇した。
- ・地域に根ざした高校との生徒間交流や、カリキュラム・マネジメントのさらなる推進など、取組の充実が必要である。

②成果指標：発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合 (%)

○アンケートの質問内容

あなたの班の地域課題解決型学習のテーマは地域活性化につながると思うか。

○結果

地域科学科生徒の実績値：91.3%（令和5年度成果目標値：85%）

○評価

- ・現在、地域科学科は仮のテーマ設定中であるが、地域活性化につながると思う（「そう思う」「ある程度そう思う」と回答した地域科学科の生徒は91.3%であった。
- ・地域科学科の多くの生徒が、松浦市職員、大学教員との協働学習において主体的に活動する姿が見られた。また、商業科との協働により、地域課題解決学習が推進された。

- ・次年度、生徒が設定した研究テーマと地域のリソースのマッチングを図り、地域と連携した取組の充実が必要である。
 - ・中高および高大の連携交流により、自分の研究について理解を深めることで、さらに「地域活性化に貢献したい」という気持ちの醸成が必要である。
- ③成果指標：育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準（課題解決能力）の到達度（5段階）における生徒自己評価の平均値
- 結果
地域科学科生徒の実績値：2.99（令和4年度成果目標値：3.5）
- 評価
- ・ルーブリック評価規準における目標値の3.5に対して、結果が2.99であり、目標を0.51ポイント下回った。
 - ・昨年度より実績値は高くなったが、生徒にとってわかりやすく、他者からの評価も取り入れやすいルーブリックへの改善が必要である。

【次年度における管理機関の支援】

- ①生徒にとって分かりやすいルーブリックの作成および改善について、学びアドバイザーとともに指導・助言を行う。
- ②ルーブリックによる指導と評価の一体化を更に推進するため、外部アセスメントによる評価結果の検証の支援を行う。
- ③地域に根ざした高等学校との連携の充実を図るため、関係高校への協力依頼などの支援を行う。

第4章 事業検証と次年度に向けて

1-1 今年度の目標設定についての検証

■目標設定シート

本構想において実現する成果目標の設定（アウトカム）						
	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	目標値(4年度)
(成果目標)						
キャリアプランを踏まえた、進路希望実現率						単位:%
本事業対象生徒:			85	90	95	85
本事業対象生徒以外:	75	75	80	85	90	80
目標設定の考え方:令和3年度の卒業生の進学先をもとに算出						
(成果目標)						
発表会等において、地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合						単位:%
本事業対象生徒:			80	85	90	80
本事業対象生徒以外:	70	70	75	80	85	75
目標設定の考え方:令和3年度学校設定科目、課題探究活動「まっナビ・プロジェクト」の研究プロジェクト10をもとに算出						
(成果目標)						
育成したい資質・能力に関するルーブリック評価規準(課題解決能力等)の到達度(5段階)における生徒自己評価の平均値						単位:ポイント
本事業対象生徒:			3.0	3.5	4.0	3.0
本事業対象生徒以外:			2.8	3.2	3.8	2.8
目標設定の考え方:令和3年度まっナビ・プロジェクトにおける生徒自己評価の平均値をもとに算出						

(1) 令和5年度 計画Iにおける成果指標

生徒個々のキャリアプランを踏まえた、進路希望の実現率 (%)

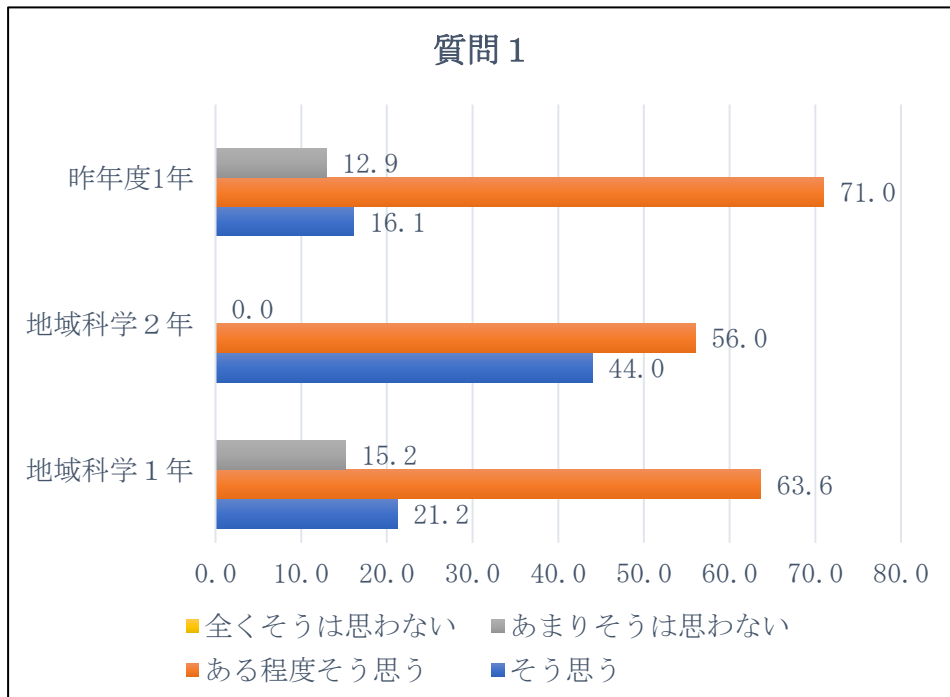
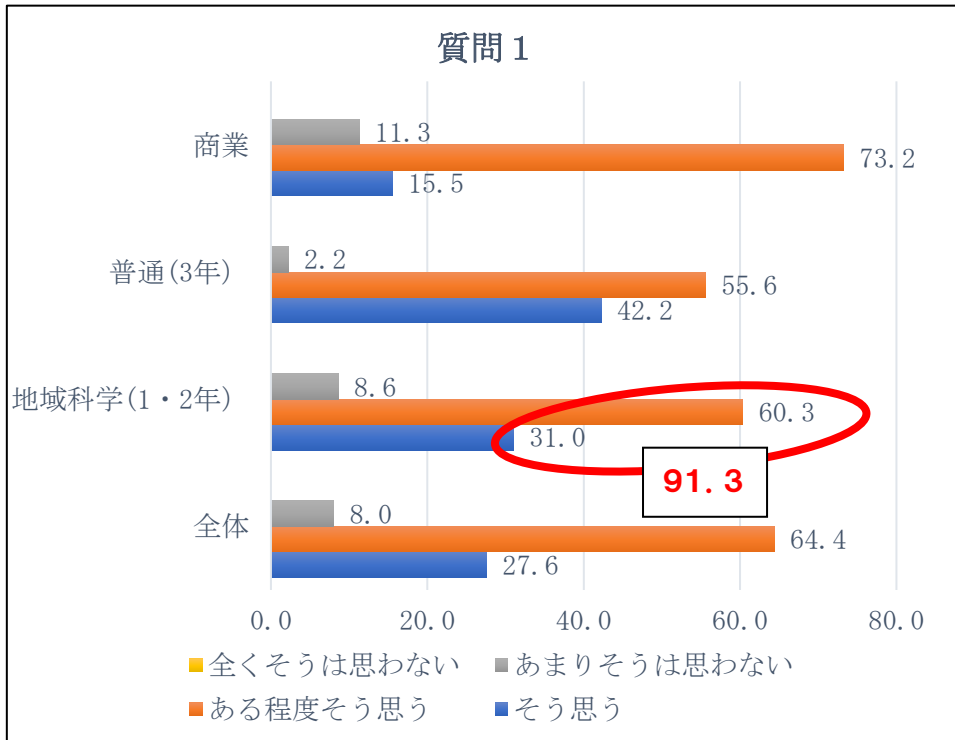
キャリアプラン策定及びその実現にむけたプロセス及び進路実現に関する、ポートフォリオを用いた生徒自己分析を用いて評価する。

【質問内容】

まっナビ・プロジェクト等を通して、卒業後や将来のことを「自分ごと」として考える力(キャリア形成力)が高まったと思うか。

【アンケート結果】

・地域科学科(1, 2年)は、91.3%が高まったと回答。今年度目標数値である90%を超えた。



(2) 計画Ⅱ 中高・高大職連携の推進とその効果等の検証に基づく連携・協力体制の在り方を含む改善

令和5年度 計画Ⅱにおける成果指標

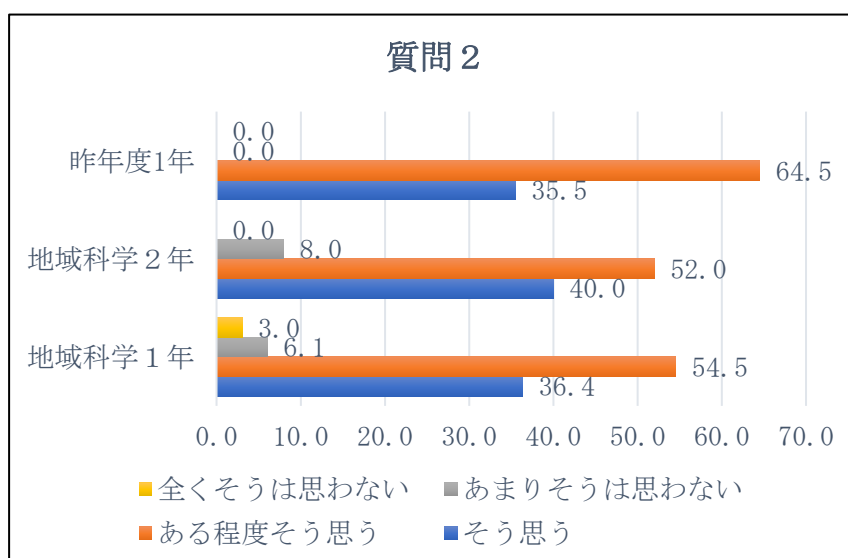
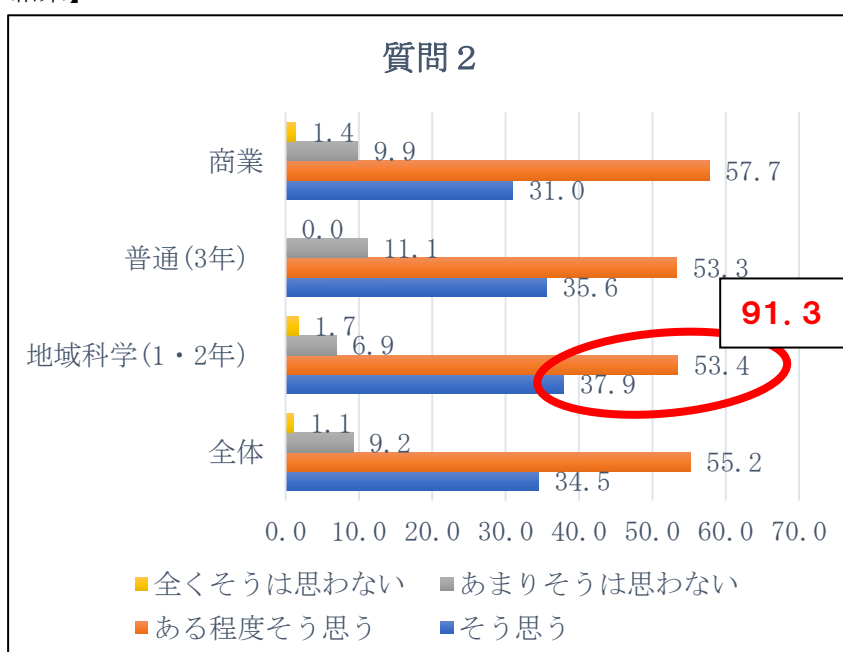
課題研究発表会等において、審査員等から地域活性化への貢献度が高いと認められた研究プロジェクト数の割合 (%)

コンソーシアムと協働した、まつナビ・プロジェクトでの実践を含む探究活動の有効性に関する審査員による審査内容から評価する。

【質問内容】

あなたの班の地域課題解決型学習「まつナビ」もしくは「プレまつナビ」のテーマは地域活性化につながるかと思うか。

【アンケート結果】



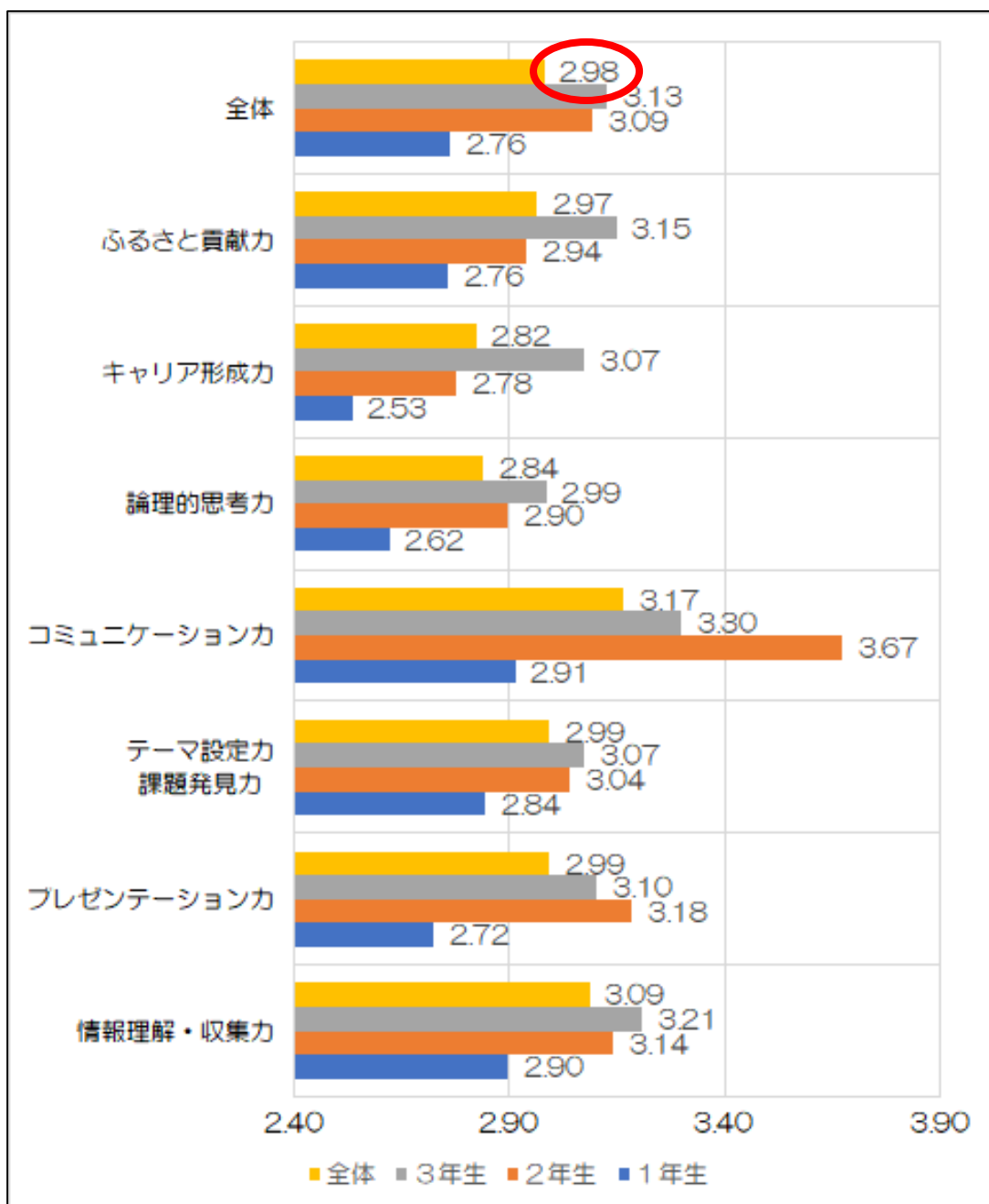
- ・今年度地域科学科（1，2年）の目標数値は、85％であったが、生徒が回答した数値では、91.3％であった。また、校内発表会におけるルーブリック評価規準を用いた審査において、審査員が、地域活性化への貢献度が高い（5段階の平均3以上）と判断した、発表班は83.3％であった。（昨年度は91.1％であった）

(3) ルーブリックによる評価【実施計画 I】

評価の観点	知識・技能		思考力・判断力・表現力等			主体的に学習に取り組む態度	
育成を図る資質能力等	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力
評価規準	①入手した情報や知識・技能についてまとめることができるか	②パワーポイントやポスターに、見やすさ等内容に工夫が見られ、発表姿勢（原稿なしの発表）や時間は適切か	③課題研究活動を「自分ごと」として捉えたテーマ設定ができているか	④地域や班活動で協働する力がついているか	⑤今後の展望（提言・実践）が明確か	⑥課題研究活動と自分の進路がつながっており、その実現に向けて行動できているか	⑦課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとする態度が醸成されているか
段階（基準）							
C	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識については、まとめることができていない。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができていない。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できていない。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なる考え方の他者を理解できていない。	課題研究活動の成果と課題を示すことができていない	自分の将来について考えることができていない。	ふるさとに貢献しようとしていない。
B	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめようとしている。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫をしようとしている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマを設定しようとしている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なる考え方の他者を理解しようとしている。	課題研究活動の成果と課題を示そうとしている。	自分の将来を考えようとしている。	課題研究活動を通して、ふるさとに貢献しようとしている。
A （ふつ）	先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめることができる。	パワーポイントやポスター等使って、聞き手に伝わりやすい工夫ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するための課題研究テーマが設定できている。	班活動において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なる考え方の他者を理解できている。	課題研究活動の成果と課題を示すことができている。	自分の将来について考えることができる。	課題研究活動が、ふるさとに貢献しようとする態度につながっている。
S	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た新たな情報や知識についてまとめ、 <u>比較・分類</u> ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、 <u>時間内にかつ原稿をあまり見ずに聞き手を見ながら発表</u> ができている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた課題研究テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なる考え方の他者を理解できている、 <u>協働</u> ができている。	課題研究活動の成果と課題を <u>道すじを立てて表現</u> することができている。	具体的な進路について深く考え、 <u>キャリア形成（進路実現）と結びつけた課題研究活動の計画を立て</u> ている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して <u>地域に説明でき</u> ており、それが <u>実践活動まで結びつ</u> いている。
SS	これまでの知識と先行事例研究やフィールドワーク等を通して得た情報や知識をまとめ、 <u>比較・分類</u> した上で <u>要・不要の取捨選択</u> ができている。	パワーポイントやポスター等使って視覚的な工夫を加えることができ、 <u>身振り手振りを加え、時間内にかつ原稿に目を通さずに聞き手を見ながら発表</u> できている。	地域課題や学問的な課題を解決するために、「自分ごと」として捉えた <u>実現可能な課題研究</u> テーマが設定できている。	班活動や地域において、自分の役割や責任を果たし、自分と異なる考え方の他者を理解できている、 <u>リーダーシップを発揮しながら、協働</u> ができている。	課題研究活動の内容を整理・分析し、成果と課題を道すじを立てた <u>将来の展望を表現</u> することができている。	具体的な進路について深く考え、 <u>キャリア形成（進路実現）に向けた計画を立て、その実現に向けた課題研究活動</u> ができている。	課題研究活動とふるさとに貢献しようとする態度が発表会等を通して <u>地域に説明でき</u> ており、 <u>何度も実践活動にチャレンジ</u> できている。

【アンケート結果】

- ・従来の「難しい専門用語」を生徒や地域にも理解しやすい言葉で示したもの（第1回会議で提示）にブラッシュアップを図った。
- ・成果としては、生徒の声掛けのタイミングがわかるようになった。（例えば、SからAになった生徒には「悩んでいるのか？」と声かけ、BからAになった生徒には、「頑張ったね」と声かけできた。）
- ・今年度の学校平均が2.98、地域科学科では2.99であった。（C=1、B=2、A=3、S=4、SS=5で算出）A=3をいわゆる「ふつう」に設定しており、文科省事業では今年度「3.2（地域科学科は3.5）」を目標としていたので、やや下回った。



	育成を図る資質能力	情報理解・収集力	プレゼンテーション力	テーマ設定力・課題発見力	コミュニケーション力	論理的思考力	キャリア形成力	ふるさと貢献力	全体
	1年生	2.90	2.72	2.84	2.91	2.62	2.53	2.76	2.76
	2年生	3.14	3.18	3.04	3.67	2.90	2.78	2.94	3.09
	3年生	3.21	3.10	3.07	3.30	2.99	3.07	3.15	3.13
	全体	3.09	2.99	2.99	3.17	2.84	2.82	2.97	2.98
1年生	地域科	2.97	2.88	2.97	3.06	2.70	2.58	2.79	2.85
	商業科	2.80	2.52	2.68	2.72	2.52	2.48	2.72	2.63
2年生	地域科	3.28	3.28	3.20	3.36	3.12	2.76	3.16	3.17
	商業科	3.00	3.08	2.88	4.00	2.67	2.79	2.71	3.02
3年生	普通科	3.23	2.98	2.77	2.72	2.59	2.47	3.08	3.23
	商業科	2.95	2.95	3.05	3.09	2.86	2.73	2.86	2.93
全体	地域科	3.10	3.05	3.07	3.19	2.88	2.66	2.95	2.99
	普通科	3.33	3.18	3.09	3.40	3.04	3.24	3.29	3.23
	商業科	2.92	2.83	2.87	3.00	2.68	2.69	2.77	2.82

【令和5年度計画Ⅰについて】

○令和5年度の成果

- 今年度（令和5年度）は、昨年度（令和4年度）作成したルーブリックによる評価に基づき、担当教員と生徒がまっナビ・プロジェクトの評価を行うことができた。
- 従来のルーブリックによる評価を長崎大学の藤井先生とともに本校プロジェクトチームでブラッシュアップを図ることができた。（ことばのわかりやすさを重点的に）
- 地域科学科の2年生は1年生（昨年度）の87.1%から100%に「キャリア形成力が高まった」と回答した。

○令和5年度の課題

- 進路実現率（将来の目標等）が定まるのは、これからだと思われる。この指標は、地域科学科の目標数値であるが、まだ、本学科の生徒は、1、2年生のみであることを考慮して、キャリア形成力だけでなく、論理的思考力やテーマ設定力等も並行して高めていく。

【令和5年度計画Ⅱについて】

○令和5年度の成果

- 中高間交流（志佐中学校）の実施
- 高大連携交流（県立大学訪問予定、県立大生による伴走）
- 地域との連携（まっうら高校応援団、松浦中央病院、松浦消防署、松浦商工会議所青年部（YEG）等）

○令和5年度の課題

- 昨年度の「そう思う」「ある程度そう思う」が地域科学科は100%ととても高かったが、今年度の1年生は、90.9%となっている。地域科学科1年生は現在、探究構想中なので、地域活性化に貢献したいという気持ちを100%にできるよう導く。
- 3年間の活動だけでなく、将来にわたって「地域活性化に貢献したい」という生徒のふるさとを愛する気持ちを醸成していく。

(4) ポートフォリオの活用状況

- ①松高ポートフォリオ…クラッシー（ベネッセコーポレーション）を利用。

昨年度の反省等から紙ベースの記録から、デジタル記録に変更。

テンプレート名：9月27日校内発表会振り返り
作成者：〇〇 〇〇先生
作成日時：2023/09/28 12:14
利用数：1

設問1：発表会でよかったこと・うまくいったこと
設問2：発表会までに少し足りなかったこと
設問3：全体的な感想

- ②生徒の記載例から見る成果

例) 9月28日 校内発表会
設問1：発表会でよかったこと・うまくいったこと
回 答：時間が限られており、詳しく話すことができなかったが、自分たちがどうしたいのか伝えることができました。また、スライド作りでは、聞く側が見やすく、興味をもてるようなスライド作りをつくるために班と協力しながら完成させることができました。
設問2：発表会までに少し足りなかったこと
回 答：発表時間が足りずに詳しく説明できなかった。発表練習時間が十分にとることができなかった。
設問3：あなたの感想
回 答：それぞれの班が、自分たちが最大限にできることを行っており、よりよいものになっていたと感じた。これからも活動を進めていく上でそれぞれの班の良いところを参考に悔いのない活動にできるようにしたい。

【成果】

- ・担当教員がリアルタイムで生徒の活動状況が把握できた。
- ・生徒の探究活動における「困りごと」に速やかに対応できた。

- ③令和6年度に向けて

- ・活動ごとに記録（入力）をすると膨大なデータ量になるので、定期的に振り返りを行いながら各活動のポイントを集約する時間を確保し、年度末の振り返りが円滑にかつ効率的にできるようにする。

(5) 三菱UFJリサーチ&コンサルティング アンケート結果

高校魅力化評価システム分析結果（「三菱UFJリサーチ&コンサルティング」による評価）

今年度、生徒向けを9月、教員向けと新たに地域向けを11月に実施した。今後この結果をもとに、本校のさまざまな教育活動の改善につなげていく。

■本校の良い面、強み：肯定的回答割合が高い項目

	項目	項目の内容	今年度	昨年度
1	【主体性に関わる学習環境】	26. 自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	93.3%	87.9%
2	【協働性に関わる自己認識】	43. 自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	91.7%	88.3%
3	【協働性に関わる学習活動】	7. グループで協力しながら学習や調べものを行う	91.1%	83.0%
4	【主体性に関わる学習環境】	35. 周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	87.8%	84.0%
5	【協働性に関わる学習活動】	8. 活動、学習内容について生徒同士で話し合う	87.2%	81.6%
6	【協働性に関わる自己認識】	42. 相手の意見を丁寧に聞くことができる	87.2%	84.0%
7	【探究性に関わる学習環境】	24. 周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	83.3%	82.5%
8	【社会性に関わる学習環境】	25. 地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	83.3%	78.2%
9	【社会性に関わる学習環境】	29. 地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	83.3%	80.1%

- ・探究活動だけでなく、教科学習における協働が身に付き始めている。(2, 3, 5, 6)
- ・地域等に対して生徒の「学びの安心感」が見られる。(1, 4, 7, 8, 9)

■本校の課題：肯定的回答割合が低い項目（昨年度比）

	項目	項目の内容	昨年度の課題	今年度	昨年度
10	【社会性に関わる行動】	70. 地域社会などでボランティア活動に参加した	○	22.8%	33.5%
11	【社会性に関わる自己認識】	65. 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい		24.4%	35.0%
12	【探究性に関わる自己認識】	41. 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ		28.9%	39.3%
13	【社会性に関わる学習活動】	16. 日本や世界の課題の解決方法について考える		33.3%	43.2%
14	【社会性に関わる自己認識】	63. 将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う		34.4%	37.9%
15	【社会性に関わる自己認識】	57. 私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	○	35.0%	34.5%
16	【社会性に関わる行動】	69. いま住んでいる地域の行事に参加した		36.7%	44.7%
17	【社会性に関わるウェルビーイング】	89. 日本の将来は明るいと思う		37.8%	47.1%
18	【主体性に関わる学習活動】	6. 学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	○	38.3%	35.0%
19	【社会性に関わる学習環境】	34. 地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	○	42.8%	45.1%

- ・グローバルな視点での学びが弱い。(11, 13, 15, 17)
- ・地域行事への参加やボランティア活動への参加する機会が少ない。(10, 16)

■本校の課題：他地域との差が大きな項目

	項目	項目の内容	昨年度 の課題	全国と の差	今年度	昨年度
20	【主体性に関わる自己認識】	39. 現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる		-21.2	51.7%	60.7%
21	【学習・その他】	90. この学校を中学生におすすめることができる		-21.1	57.8%	57.3%
22	【探究性に関わる自己認識】	41. 複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ		-19.8	28.9%	39.3%
23	【社会性に関わる自己認識】	65. 将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい		-19.3	24.4%	35.0%
24	【探究性に関わる学習活動】	10. 自分の考えを文章や図表にまとめる	○	-16.8	49.4%	49.5%
25	【社会性に関わるウェルビーイング】	88. この地域を、将来暮らす場所としておすすめることができる		-16.6	51.7%	55.3%
26	【社会性に関わる学習活動】	16. 日本や世界の課題の解決方法について考える	○	-16.5	33.3%	43.2%
27	【協働性に関わる行動】	73. 友人などから、意見やアドバイスを求められた	○	-14.9	57.2%	63.6%
28	【探究性に関わる自己認識】	67. 学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている		-14.6	66.1%	67.5%
29	【社会性に関わる自己認識】	57. 私が関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない		-14.5	35.0%	34.4%
30	【主体性に関わる自己認識】	37. うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む		-13.9	62.8%	70.4%
31	【探究性に関わる自己認識】	54. 一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする		-13.5	67.2%	67.5%
32	【協働性に関わる行動】	72. 自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	○	-12.3	58.3%	58.7%
33	【探究性に関わる自己認識】	46. 勉強したものを実際に応用してみる		-11.8	55.6%	55.1%
34	【探究性に関わる自己認識】	45. 情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる		-11.2	71.1%	63.1%

- ・まつナビや教科の学びを結び付けて考える力が弱い。(20、24、28、31、33、34)
- ・アドバイスをしたり、受けたりするコミュニケーション力が弱い。(27、30)
- ・自分の考えをまとめる力(論理的思考力)が弱い。(20、22、24、31、32、33)
- ・探究性の弱さが見られる。(22、25、28、31、33、34)

■生徒向けアンケート結果

	内容	2022 年度	2023 年度	前年比
【探究性に関わる学習活動】	10.自分の考えを文章や図表にまとめる	49.5%	49.4%	-0.1
【探究性に関わる学習活動】	11.話し合った内容をまとめる	69.4%	-	
【探究性に関わる学習活動】	12.活動、学習のまとめを発表する	65.0%	61.7%	-3.3
【協働性に関わる学習活動】	13.生徒同士で活動、学習の振り返りを行う	63.6%	58.3%	-5.3
【社会性に関わる学習活動】	14.地域の魅力や資源について考える	71.4%	-	
【社会性に関わる学習活動】	15.地域の課題の解決方法について考える	79.6%	76.1%	-3.5
【社会性に関わる学習活動】	16.日本や世界の課題の解決方法について考える	43.2%	33.3%	-9.9
【探究性に関わる学習環境】	17.本音を気兼ねなく発言できる雰囲気がある	77.2%	78.9%	1.7
【探究性に関わる学習環境】	18.将来のことや実現したいことを話し合える大人がいる	74.8%	77.8%	3.0
【社会性に関わる学習環境】	19.地域から大切にされている雰囲気を感じる	81.1%	-	
【主体性に関わる学習環境】	20.失敗してもよいという安全・安心な雰囲気がある	73.8%	78.9%	5.1
【主体性に関わる学習環境】	21.挑戦する人に対して、応援する雰囲気がある	87.9%	-	
【協働性に関わる学習環境】	22.人と違うことが尊重される雰囲気がある	71.8%	73.3%	1.5
【協働性に関わる学習環境】	23.ありのままの自分が尊重される雰囲気がある	75.7%	-	
【探究性に関わる学習環境】	24.周りの大人は、じっくりと話を聞き、考える手助けをしてくれる	82.5%	83.3%	0.8
【社会性に関わる学習環境】	25.地域の人や課題など、興味を持ったことに対してすぐに橋渡しをしてくれる大人がいる	78.2%	83.3%	5.1
【主体性に関わる学習環境】	26.自分が何かに挑戦しようと思ったとき、周りは手を差し伸べてくれる	87.9%	93.3%	5.4
【協働性に関わる学習環境】	27.自分と異なる立場や役割を持つ人との関わりがある	75.7%	-	
【協働性に関わる学習環境】	28.立場や役割を超えて協働する機会がある	68.4%	72.2%	3.8
【社会性に関わる学習環境】	29.地域の人や課題などにじかに触れる機会がある	80.1%	83.3%	3.2
【協働性に関わる学習環境】	30.人の挑戦に関わらせてもらえる機会がある	62.6%	56.1%	-6.5
【探究性に関わる学習環境】	31.お互いに問いかけあう機会がある	64.6%	-	
【社会性に関わる学習環境】	32.自分の暮らす地域を、外からの視点で考える機会がある	63.6%	60.6%	-3.0
【主体性に関わる学習環境】	33.目標や当事者意識を持って挑戦している人がある	71.8%	-	
【社会性に関わる学習環境】	34.地域に、尊敬している・憧れている大人がいる	45.1%	42.8%	-2.3
【主体性に関わる学習環境】	35.周りの大人は、自分に関わることについて自分で決めることを尊重してくれる	84.0%	87.8%	3.8
【探究性に関わる学習環境】	36.生徒の意見が学校での意思決定に反映される雰囲気がある	63.6%	65.6%	2.0
【主体性に関わる自己認識】	37.うまくいくか分からないことにも意欲的に取り組む	70.4%	62.8%	-7.6
【探究性に関わる自己認識】	38.家や寮で、誰かに言われなくても自分から勉強する	61.7%	59.4%	-2.3
【主体性に関わる自己認識】	39.現状を分析し、目的や課題を明らかにすることができる	60.7%	51.7%	-9.0
【主体性に関わる自己認識】	40.目標を設定し、確実に行動することができる	58.3%	51.1%	-7.2
【探究性に関わる自己認識】	41.複雑な問題を順序立てて考えることが得意だ	39.3%	28.9%	-10.4
【協働性に関わる自己認識】	42.相手の意見を丁寧に聞くことができる	84.0%	87.2%	3.2
【協働性に関わる自己認識】	43.自分とは異なる意見や価値を尊重することができる	88.3%	91.7%	3.4

【協働性に関わる自己認識】	44.共同作業だと、自分の力が発揮できる	62.6%	63.9%	1.3
【探究性に関わる自己認識】	45.情報を、勉強したことや知っていることと関連づけて理解することができる	63.1%	71.1%	8.0
【探究性に関わる自己認識】	46.勉強したものを実際に応用してみる	51.5%	55.6%	4.1
【主体性に関わる自己認識】	47.忍耐強く物事に取り組むことができる	65.5%	64.4%	-1.1
【探究性に関わる自己認識】	48.自分を客観的に理解することができる	62.6%	66.1%	3.5
【協働性に関わる自己認識】	49.自分の考えをはっきり相手に伝えることができる	52.4%	63.9%	11.5
【主体性に関わる学習活動】	5.自主的に調べ物や取材を行う	66.5%	69.4%	2.9
【協働性に関わる自己認識】	50.友達の前で自分の意見を発表することは得意だ	48.1%	-	
【主体性に関わる自己認識】	51.自分にはよいところがあると思う	66.5%	76.1%	9.6
【主体性に関わる自己認識】	52.私は、自分自身に満足している	44.7%	55.6%	10.9
【主体性に関わる自己認識】	53.自分で計画を立てて活動することができる	61.7%	-	
【探究性に関わる自己認識】	54.一つ二つの立場だけでなく、できるだけ多くの立場から考えようとする	67.5%	67.2%	-0.3
【社会性に関わる自己認識】	55.18歳選挙権を取得したら、選挙に行くと思う	77.7%	72.2%	-5.5
【社会性に関わる自己認識】	56.地域をよりよくするため、地域における問題に関わりたい	52.4%	53.9%	1.5
【社会性に関わる自己認識】	57.私に関わることで、変えてほしい社会状況が少し変えられるかもしれない	34.5%	35.0%	0.5
【社会性に関わる自己認識】	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	64.6%	61.7%	-2.9
【社会性に関わるウェルビーイング】	58.将来、自分の住んでいる地域のために役に立ちたいという気持ちがある	64.6%	61.7%	-2.9
【社会性に関わる自己認識】	59.地域で起きている課題と世界で起きている課題は、お互いに関連しあっていると感じる	63.6%	-	
【主体性に関わる学習活動】	6.学校外のいろいろな人に話を聞きに行く	35.0%	38.3%	3.3
【社会性に関わる自己認識】	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	44.7%	47.8%	3.1
【社会性に関わるウェルビーイング】	60.住んでいる地域の文化や暮らしの価値ある部分を、自らの手で未来に伝えていきたい	44.7%	47.8%	3.1
【探究性に関わる自己認識】	61.地域社会の魅力や課題について、自主的にテーマを設定し、フィールドワーク等を行いながら調べ、考える学習活動に対して、熱心に取り組んでいる	64.1%	63.9%	-0.2
【社会性に関わる自己認識】	62.地域や社会で起きている問題やできごとに関心がある	58.3%	65.6%	7.3
【社会性に関わる自己認識】	63.将来、自分のいま住んでいる地域で働きたいと思う	37.9%	34.4%	-3.5
【社会性に関わる自己認識】	64.将来、見知らぬ土地でチャレンジしてみたい	69.4%	77.8%	8.4
【社会性に関わる自己認識】	65.将来の国や地域の担い手として、積極的に政策決定に関わりたい	35.0%	24.4%	-10.6
【協働性に関わるウェルビーイング】	66.この学校に入ってよかったと思う	75.2%	77.8%	2.6
【探究性に関わる自己認識】	67.学校で学習することで、自分ができることやしたいことが増えている	67.5%	66.1%	-1.4
【探究性に関わるウェルビーイング】	68.自分の将来について明るい希望を持っている	69.9%	71.1%	1.2
【社会性に関わる行動】	69.いま住んでいる地域の行事に参加した	44.7%	36.7%	-8.0
【協働性に関わる学習活動】	7.グループで協力しながら学習や調べものを行う	83.0%	91.1%	8.1
【社会性に関わる行動】	70.地域社会などでボランティア活動に参加した	33.5%	22.8%	-10.7
【主体性に関わる行動】	71.授業で分からないことについて、自分から質問したり、分かる人に聞きにいったりした	78.6%	71.7%	-6.9

【協働性に関わる行動】	72.自分の考えについて、様々な人に意見やアドバイスを求めた	58.7%	58.3%	-0.4
【協働性に関わる行動】	73.友人などから、意見やアドバイスを求められた	63.6%	57.2%	-6.4
【主体性に関わる行動】	74.授業で興味・関心を持った内容について、自主的に調べ物を行った	53.9%	51.7%	-2.2
【探究性に関わる行動】	75.授業の内容について、「なぜそうなるのか」と疑問を持って、自分で考えたり調べたりした	64.6%	58.3%	-6.3
【探究性に関わる行動】	76.公式やきをまりを習う時、その根拠を理解するように、自分で考えたり調べたりした	57.3%	54.4%	-2.9
【社会性に関わる行動】	77.先生、保護者以外の地域の大人と、なにげない会話を交わした	64.1%	-	
【学習・その他】	78.国際社会の課題解決に貢献したい	38.8%	-	
【学習・その他】	79.まだ世の中にない新しい技術やサービスを生み出してみたい	35.9%	-	
【協働性に関わる学習活動】	8.活動、学習内容について生徒同士で話し合う	81.6%	87.2%	5.6
【学習・その他】	80.客観的な証拠に基づき考え、判断する科学的視点から課題解決にあたることができる	30.6%	-	
【主体性に関わるウェルビーイング】	81.今の生活全般の満足度	49.5%	65.0%	15.5
【主体性に関わるウェルビーイング】	82.普段のあなたの幸福度	49.0%	68.3%	19.3
【主体性に関わるウェルビーイング】	83.現在の日常生活に不安や心配事がない	53.4%	51.1%	-2.3
【協働性に関わるウェルビーイング】	84.学校の一員だと感じている	82.5%	83.3%	0.8
【協働性に関わるウェルビーイング】	85.大切な人を幸せにしたり、楽しませたりしていると思う	78.2%	73.9%	-4.3
【探究性に関わるウェルビーイング】	86.自分の将来についての見通し(将来こういう風でありたい)を持っている	75.7%	79.4%	3.7
【探究性に関わるウェルビーイング】	87.自分の将来に向けて大切だと思うことを実行している	78.6%	71.7%	-6.9
【社会性に関わるウェルビーイング】	88.この地域を、将来暮らす場所としておすすめできる	55.3%	51.7%	-3.6
【社会性に関わるウェルビーイング】	89.日本の将来は明るいと思う	47.1%	37.8%	-9.3
【協働性に関わる学習活動】	9.活動、学習内容について大人(教員や地域の大人)と話し合う	50.5%	-	
【学習・その他】	90.この学校を中学生におすすめできる	57.3%	57.8%	0.5

■大人向けアンケート結果

昨年度は教員20名、地域の方1名だけの回答であったが、今年度は教員28名、地域の方が18名の回答数となっている。

	項目	教員			全体(大人)		
		今年 28名	昨年 20名	差	今年 46名	昨年 21名	差
5	失敗を恐れずに挑戦することができる	67.9	55.0	12.9	73.9	57.1	16.8
6	目標や当事者意識を持って挑戦することができる	78.6	60.0	18.6	71.7	61.9	9.8
7	自身の挑戦に、周囲を巻き込もうとしている	50.0	50.0	0.0	69.6	47.6	22.0
8	人と違うこと、異なった意見を尊重している	58.5	60.0	-1.5	60.9	61.9	-1.0
9	ありのままの個人を尊重している	89.2	70.0	19.2	69.6	71.4	-1.8
10	本音を気兼ねなく発言できる	39.2	30.0	9.2	69.6	33.4	36.3
11	地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がある	42.8	50.0	-7.2	65.2	47.6	17.6
12	自分の暮らす地域を外からの視点で考える機会を持っている	67.9	65.0	2.9	60.9	61.9	-1.0
13	挑戦する人に対して、応援することができる	85.7	75.0	10.7	63.0	76.2	-12.9
14	誰かが何かに挑戦しようと思ったとき、手を差し伸べている	82.2	80.0	2.2	73.9	81.0	-7.1
15	自分と異なる立場や役割を持つ人と交流している	78.6	70.0	8.6	63.0	66.7	-3.7
16	立場や役割を超えて協働している	60.7	75.0	-14.3	65.2	76.2	-11.0
17	生徒に対してじっくりと話を聞き、考える手助けができています	78.5	75.0	3.5	67.4	76.2	-8.8
18	お互いに問いかけあう機会がある	60.8	60.0	0.8	65.2	61.9	3.3
19	生徒の関心に合わせて、機会を提供できている	78.6	75.0	3.6	80.4	76.2	4.2
20	地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている	82.2	80.0	2.2	56.6	76.2	-19.6
21	地域で生徒を育てるという意識を持っている	85.7	70.0	15.7	52.1	66.7	-14.6
22	子どもの自己決定を尊重できている	82.1	75.0	7.1	69.5	76.2	-6.7
25	この学校を中学生にすすめることができる	71.5	45.0	26.5	60.8	47.6	13.2
26	この学校に関わってよかったと思う	75.0	60.0	15.0	50.0	61.9	-11.9
27	この地域を、将来暮らす場所としてすすめることができる	46.4	50.0	-3.6	65.3	52.4	12.9
28	授業の質の向上につながっている(教員のみ)	57.2	55.0	2.2	57.2	55.0	2.2
29	自身の資質・能力の向上につながっている(教員のみ)	71.4	55.0	16.4	-	-	-
30	学習意欲が高まった生徒がいる(教員のみ)	57.1	40.0	17.1	-	-	-
31	業務負担感の軽減につながっている(教員のみ)	14.3	10.0	4.3	-	-	-

- ・全体でみると、「地域の人や課題などにじかに触れる機会を持っている」、「地域で生徒を育てるという意識を持っている」が昨年度より10ポイント以上低くなっている。
- ・教員向けでは、「地域に、将来のことや実現したいことを話し合える人がいる」が昨年度と比較して7.2ポイント低くなっているが、全体では17.6ポイント増加している。また、「立場や役割を超えて協働している」が昨年度と比較して14.3ポイント低くなっており、全体的にみても11.0%と低くなっている。さらに、「自身の資質・能力の向上につながっている」、「学習意欲が高まった生徒がいる」が10ポイント以上増加している。

(5) 地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）継続アンケート
令和2年から4年度まで研究指定を受けていた文科省委託事業において、今年度も継続して生徒アンケートを実施した。

4：とてもそう思う。3：まあそう思う。
2：あまりそうは思わない。1：全くそうは思わない。

<松浦に関する知識>

- ア 松浦の歴史や文化について、知っている。
- イ 松浦の自然について、知っている。
- ウ 松浦の産業やその特色などについて、知っている。
- エ 松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。
- オ 地域の課題解決の方法を、考えたことがある。

<ふるさとや松浦に対する意識>

- カ 自分のふるさとや松浦のことが、好きである。
- キ 地域の課題を解決したり、地域を活性化したりする活動に、興味を持っている。
- ク 自分のふるさとや松浦を訪れる人やU I ターンの移住者から多くのことを学んでみたい。
- ケ 地域課題の成果を考え、その解決に向けて意欲的に取り組み、将来は松浦市に貢献したい。
(そう思ったことがある)

<進学希望先別の意識> 質問サ、質問シのうち当てはまるものを答えてください。第1希望のみ。

- コ 高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。(長崎県内就職も考えている)
- サ 高校卒業後に進学する生徒のうち、大学等卒業後にUターンして就職したい。
(Uターン先は松浦市ではなく「長崎県内」です。進学希望者は大学だけでなく、短大、専門学校等も含まれます。)
- シ 大学等へ進学する生徒のうち、地域活性化や教員養成系に関わる学部・学科へ進学したい。
(大学等とは四年制大学及び短大です。学部・学科は地域系、経済系や社会学系、国際系及び教員養成、文学・語学系、保育等です)

<自分の学力の分析>

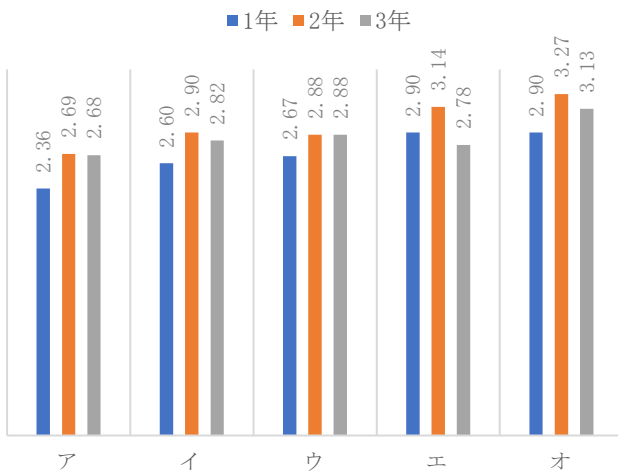
- ス 自分は、地域でのヒアリング・インタビュー・アンケートを実施する力がある。
- セ 自分は、フィールドワークの結果を分析する力がある。
- ソ 自分は、地域の課題を改善する方法を考える力がある。
- タ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をまとめる力がある。
- チ 自分は、フィールドワークの結果や課題改善の方法をプレゼンテーションする力がある。
- ツ いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。
- テ ふるさとに関する課題を発見し、研究テーマを設定する力がある。
- ト 道理や筋道に従いながら考え、結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。

■アンケート調査結果

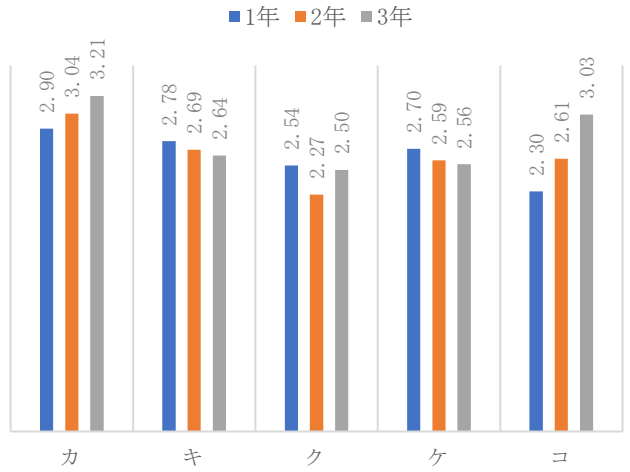
○今年度の状況

	対象	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R5	1年	2.36	2.60	2.67	2.90	2.90	2.90	2.78	2.54	2.70	2.30	1.95	1.93	2.34	2.54	2.57	2.60	2.57	2.53	2.53	2.37
	2年	2.69	2.90	2.88	3.14	3.27	3.04	2.69	2.27	2.59	2.61	2.05	2.00	2.22	2.59	2.55	2.57	2.57	2.47	2.59	2.33
	3年	2.68	2.82	2.88	2.78	3.13	3.21	2.64	2.50	2.56	3.03	2.39	2.81	2.46	2.71	2.74	2.67	2.61	2.67	2.56	2.57
	全体	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44
R4	1年	2.49	2.69	2.67	2.97	2.82	2.97	2.79	2.59	2.59	2.21	2.00	2.17	1.95	1.97	2.15	2.10	1.90	2.13	2.31	2.03
	2年	2.58	2.70	2.68	2.68	3.00	2.93	2.53	2.45	2.58	2.70	2.38	2.37	2.08	2.33	2.33	2.46	2.30	2.38	2.25	2.33
	3年	2.74	2.95	3.00	2.95	3.35	3.09	2.78	2.53	2.73	3.00	2.35	2.65	2.47	2.59	2.55	2.59	2.45	2.57	2.48	2.55
	全体	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R3	1年	2.67	2.50	2.50	2.50	2.42	1.99	2.22	2.42	2.59	2.58	2.90	2.87	2.89	2.86	2.75	2.87	3.00	2.77	2.82	2.91
	2年	2.39	2.30	2.20	2.33	2.12	2.09	2.36	2.50	2.42	2.51	2.84	2.73	2.70	2.57	2.62	2.61	2.72	2.61	2.71	2.72
	3年	2.34	2.63	2.82	2.88	3.18	2.66	2.30	2.00	2.09	2.78	1.94	2.64	2.27	2.50	2.54	2.50	2.45	2.54	2.36	2.29
	全体	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R2	1年	2.54	2.53	2.67	2.51	2.56	2.77	2.97	2.51	2.28	2.21	2.97	2.44	2.32	2.33	2.45	2.13	2.20	2.19	2.27	2.07
	2年	2.17	2.55	2.71	2.67	2.98	2.86	3.05	2.45	2.26	2.13	3.34	2.28	2.07	2.12	2.05	2.28	2.38	2.50	2.38	2.34
	3年	2.39	2.39	2.68	2.49	2.67	3.07	3.14	2.52	2.16	2.13	3.19	2.55	2.36	2.65	2.42	2.44	2.45	2.45	2.37	2.28
	全体	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21

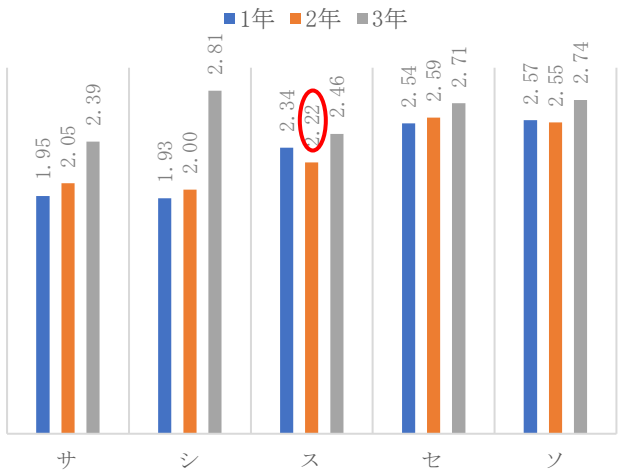
R5－質問ア～オ



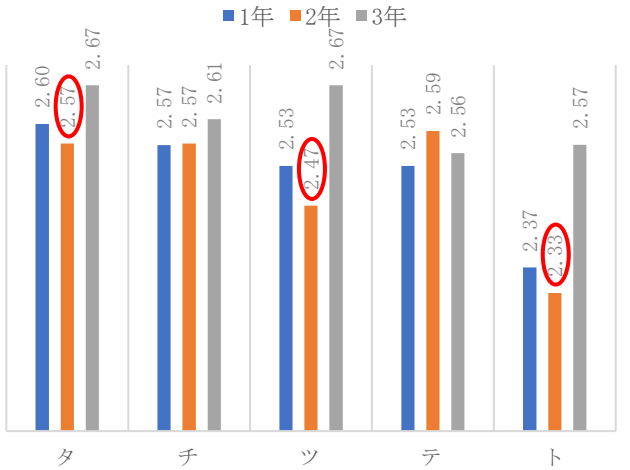
R5－質問カ～コ



R5－質問サ～ソ



R5－質問タ～ト



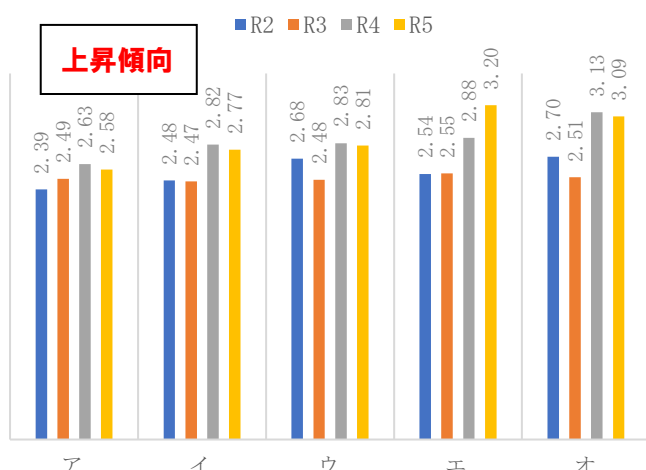
質問ア～オは、いずれの質問も2年生が最も高くなっている。質問コ「高校卒業後に就職する生徒のうち、地元就職したい。」と考えている生徒は、学年が上がるごとに高くなっている。質問ツ「いろいろな人の意見に耳を傾け、対話をし、発信していくコミュニケーション力がある。」と考える生徒および質問ト「道理や筋道に従いながら考え、結論を導き、結論について分かりやすく説明する力がある。」は3年生で高くなっている。また、2年生が質問ス～トの多くで低くなっている。2年生の探究活動における課題を分析することが、次年度の改善につながると考えている。一步踏み出す力が出せる仕掛けを考える必要がある。

(「発表会」がゴールではなく、継続性をもった年間計画の見直しが必要。)

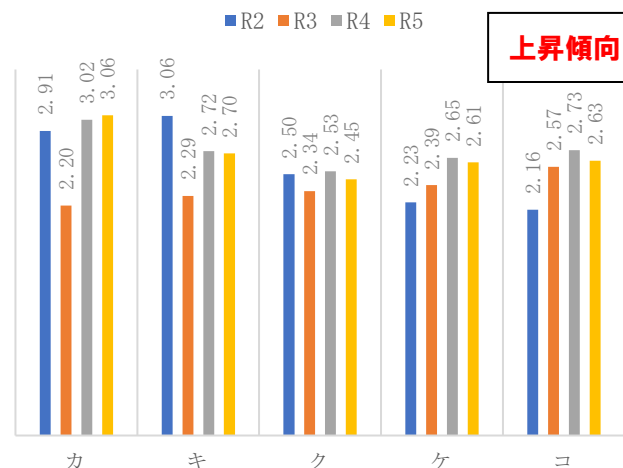
○過年度比較

	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
R2	2.39	2.48	2.68	2.54	2.70	2.91	3.06	2.50	2.23	2.16	3.15	2.45	2.28	2.41	2.34	2.29	2.34	2.37	2.34	2.21
R3	2.49	2.47	2.48	2.55	2.51	2.20	2.29	2.34	2.39	2.57	2.65	2.79	2.67	2.66	2.65	2.68	2.77	2.66	2.66	2.68
R4	2.63	2.82	2.83	2.88	3.13	3.02	2.72	2.53	2.65	2.73	2.26	2.45	2.24	2.37	2.39	2.44	2.28	2.41	2.38	2.36
R5	2.58	2.77	2.81	3.20	3.09	3.06	2.70	2.45	2.61	2.63	2.15	2.20	2.36	2.62	2.74	2.62	2.59	2.57	2.56	2.44

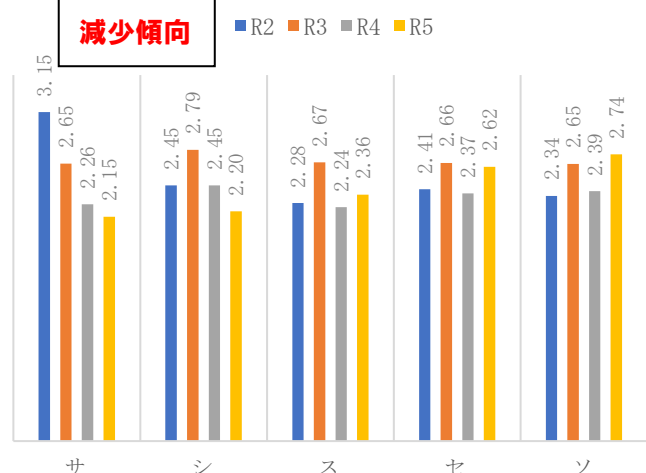
過年度比較－質問ア～オ



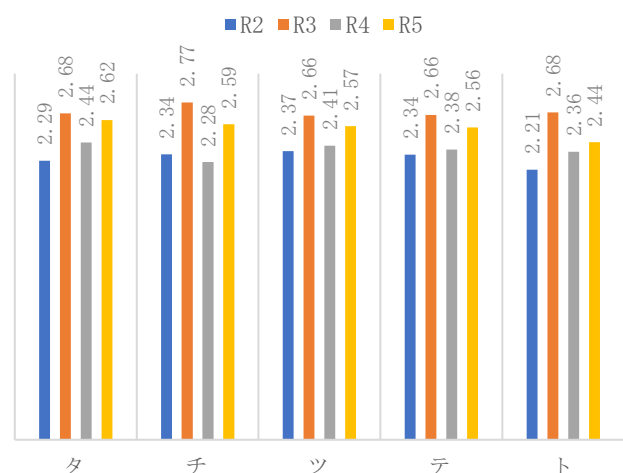
過年度比較－質問カ～コ



過年度比較－質問サ～ソ



過年度比較－質問タ～ト

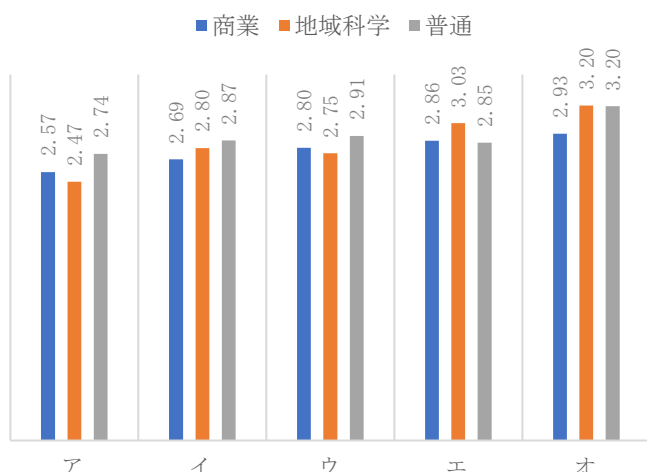


質問エ「松浦が抱えている問題点や課題について、知っている。」と答える生徒は過去4年間で最も高いが、質問サ「高校卒業後に進学する生徒のうち、大学卒業後にUターンして就職したい。」と考える生徒は、年々減少している。

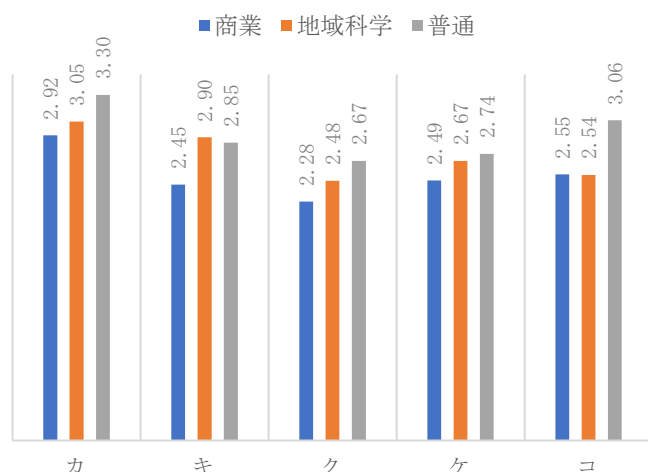
○学科別

R5		ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト
商業	全体	2.57	2.69	2.80	2.86	2.93	2.92	2.45	2.28	2.49	2.55	2.08	1.71	2.27	2.51	2.46	2.46	2.41	2.45	2.38	2.33
	3年	2.58	2.73	2.81	2.65	3.00	3.04	2.27	2.19	2.23	3.00	2.54	2.75	2.35	2.62	2.58	2.54	2.50	2.58	2.50	2.54
	2年	2.74	2.83	2.83	3.17	3.13	2.96	2.65	2.30	2.61	2.60	1.88	1.67	2.35	2.43	2.39	2.39	2.43	2.52	2.35	2.22
	1年	2.40	2.52	2.76	2.80	2.68	2.76	2.44	2.36	2.64	2.21	1.81	1.43	2.12	2.46	2.40	2.44	2.28	2.24	2.28	2.21
地域科学	全体	2.47	2.80	2.75	3.03	3.20	3.05	2.90	2.48	2.67	2.54	2.09	2.30	2.34	2.66	2.69	2.73	2.75	2.61	2.76	2.46
	2年	2.65	2.96	2.92	3.12	3.38	3.12	2.73	2.23	2.58	2.62	2.18	2.13	2.12	2.73	2.69	2.73	2.79	2.42	2.81	2.42
	1年	2.33	2.67	2.61	2.97	3.06	3.00	3.03	2.69	2.75	2.46	2.04	2.40	2.52	2.61	2.70	2.73	2.79	2.76	2.73	2.48
普通	全体	2.57	2.69	2.80	2.86	2.93	2.92	2.45	2.28	2.49	2.55	2.08	1.71	2.27	2.51	2.46	2.46	2.41	2.45	2.38	2.33
	3年	2.74	2.87	2.91	2.85	3.20	3.30	2.85	2.67	2.74	3.06	2.32	2.83	2.52	2.76	2.83	2.74	2.67	2.72	2.59	2.59

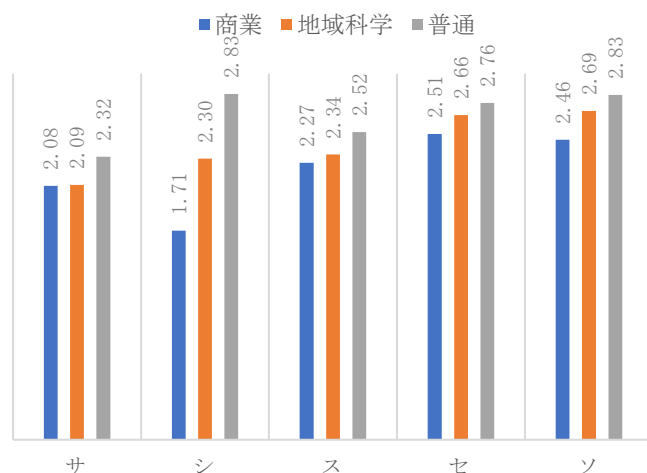
学科別－質問ア～オ



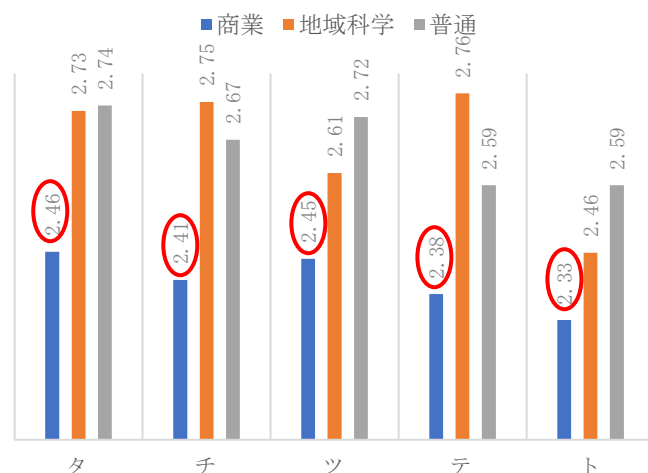
学科別－質問カ～コ



学科別－質問サ～ソ



学科別－質問タ～ト



1-2 次年度に向けて

(1) 課題改善の方向性

生徒アンケートや高校魅力化アンケートの結果を踏まえ、現在年間計画の再検討を行っており、現時点では以下のとおりである。

特に、ここ数年の「まつナビ・プロジェクト」は、「探究性」が重要なポイントであるが、現状では資質・能力として身に付いていない状況にあるため、特に以下の点に留意している。

- ①1年の前半では、地域のことについてインプットする機会を積極的に設けている。
- ②地域への興味・関心を高めるために、「MATSUURA 仕事図鑑」を継続して行う。
- ③テーマ設定に時間をかけ、自らの興味・関心だけに限らず、解決すべき社会的課題や科学的課題などからテーマを導き出せるような仕組みを取り入れる。
- ④生徒の発表に対して、教員はもちろんのこと外部（地域の方々、大学生等）から生徒の学びが深まる助言を得られるように工夫をする。特に学びの「振り返り」についての時間を確保する。
- ⑤2年生の最終発表会（課題研究発表会）が「ゴール」ではなく、「進路実現（キャリア形成）」が最終的なゴールであると1年生の頃から意識づける。また、生徒だけでなく、教員も同様なマインドセットを図る。また、これを実現するために、今年度より実施している「進路別探究」をより具体的な計画へブラッシュアップを図ったり、生徒が各活動において時間をかけて振り返りを行えるような活動計画へ見直しを図ったりする。

■令和6年度の計画の内容

月	事業の内容	
	カリキュラムや教育方法等の開発	関係機関等との連携・協力体制の構築
4月	<ul style="list-style-type: none"> ○資質・能力を身に付けさせるためのルーブリック評価規準やポートフォリオ活用に関する生徒への説明・運用開始（全体） ○外部機関のアセスメント・レディネス調査実施（全体） ○地域素材を活用した授業計画の作成 →教科横断型授業、各教科の学習内容と探究活動とを往還する学習 ○職員研修（全体） ○進路別探究活動のテーマ設定（3年） ○班別探究活動の本格化（2年） ○中学校の活動の振り返り（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○ルーブリック・ポートフォリオの活用 →学びアドバイザーとのルーブリックの確認 ○外部機関のアセスメント →管理機関との結果の共有 ○職員研修（ルーブリック等、外部機関のアセスメント、地域素材を活用した授業づくり） →大学及び管理機関からの指導・助言

5月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別探究活動の継続（～7月）（3年） ○班別探究活動の継続（2年） →課題分析・解決能力の育成 ○探究スキル（課題発見）育成講座、地域の魅力について知るための松浦未来講演会を実施（1年）→探究スキル、ふるさと貢献力 	<ul style="list-style-type: none"> ○2年探究活動→コンソーシアムを通じて大学及び地域人材等に支援依頼 ○探究スキル育成講座→大学との連携、外部講師招聘 ○松浦未来講演会→松浦市役所・まつうら高校応援団加盟各事業所との連携
6月	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム会議・運営指導委員会（全体）→職員へのフィードバック ○班別探究活動の継続・中間発表準備（2年） →課題分析・解決能力、プレゼン力 ○「MATSUURA 仕事図鑑」（1年） →ふるさと貢献力、必要なスキル育成 	<ul style="list-style-type: none"> ○コンソーシアム会議・運営指導委員会→研究開発及び事業推進体制への指導助言 ○班別課題研究→長崎大学生や長崎県立大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバックによる研究 ○仕事図鑑→地域の人材活用
7月	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域高校」との連携・協働研究ミーティング（全体） ○進路別探究活動のまとめ（3年） ○中間発表会（2年） →課題分析・解決能力・プレゼン力 ○フィールドワーク（2年）及び仕事図鑑インタビュー（1年）→ふるさと貢献力 	<ul style="list-style-type: none"> ○「地域高校」との連携→外部機関及び連携高校とのミーティング内容の調整 ○中間報告会→大学生・外部審査委員・地域等の人材からのフィードバック ○フィールドワーク・仕事図鑑インタビューの支援→コンソーシアム等との連携
8月	<ul style="list-style-type: none"> ○個人・班別の取組のとりまとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ○必要に応じて外部諸事業所と連携
9月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別探究活動のまとめ（3年） ○フィールドワークの成果を生かした班別探究の継続（2年）→課題分析・解決能力 ○仕事図鑑報告会（1年） →資料作成力、プレゼン力 	<ul style="list-style-type: none"> ○仕事図鑑報告会 →インタビュー対象者の招待
10月	<ul style="list-style-type: none"> ○進路別課題研究論文作成（～12月） ○課題研究発表会準備（2年）→課題分析・解決力・プレゼン力 ○研究テーマ設定及び研究活動構想（1年） →自ら学び行動する力 ○地域の伝統芸能見学（1年）→ふるさと貢献力 	<ul style="list-style-type: none"> ○プレ構想発表会（1年） →大学生・地域人材からのフィードバック ○伝統芸能見学→見学先との調整
11月	<ul style="list-style-type: none"> ○課題探究発表会（2年）・発表会見学（1年） →課題分析・解決能力、プレゼン力 ○東京フィールドワーク準備（2年） ○研究活動班の始動（1年） 	<ul style="list-style-type: none"> ○課題探究発表会→長崎大生や長崎県立大学生および外部審査委員への評価方法の説明 ○東京フィールドワーク→訪問先との調整

1 2 月	○東京フィールドワーク（2年） ○「地域高校」との連携ミーティング・生徒交流会（2年） ○各研究活動班でのテーマ設定（1年） →課題分析力	○東京フィールドワーク→訪問先との調整 ○「地域高校」との交流会 →連携校との調整、会場との調整 ○必要に応じて外部諸事業所と連携
1 月	○1年間の取り組みを振り返るアンケートの実施・ポートフォリオの作成（全体） ○3年間の総括（3年） ○課題探究のまとめ（2年） ○インターンシップ準備（2年） ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク（1年）	○生徒アンケート等→結果の分析及び管理機関との共有 ○インターンシップ→各事業所との調整 ○班別構想発表会準備・フィールドワーク →各事業所との連携
2 月	○コンソーシアム会議・運営指導委員会（全体） ○インターンシップ準備（2年） ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク（1年）	○コンソーシアム会議・運営指導委員会→アンケート等の分析結果に基づき、課題研究活動や事業の検証を行い、次年度の計画を立案 ○インターンシップ→各事業所との調整 ○班別研究構想発表会準備・フィールドワーク →各事業所との連携
3 月	○インターンシップ（2年） ○フィールドワーク（1年）	○インターンシップ→各事業所との調整 ○フィールドワーク →各事業所との連携

(2) 生徒の学びを深めるための次年度の取組（案）

①計画Ⅰについて：「まつナビ・プロジェクト」を含めたカリキュラムの充実

- ・外部講師による研修会・ワークショップ等を実施し、生徒同士が協議をする場面を多く取り入れ、グループでの課題解決に必要な対話のスキルや探究のスキル等を身に付けさせる。
- ・教育活動の取組について、目標・意義を明確にするために、評価方法（ルーブリック評価規準）の改善を図る。
- ・ファシリテーター（教員）のチェックリストを作成し、学びの分岐点等でチェックを行い、生徒の活動に反映させていく。
- ・生徒の興味・関心や社会的課題や科学的課題などに基づいたテーマを設定し、「自分ごと」として学びを進めるようにファシリテートしていく。
- ・学校設定科目「まつナビ・プロジェクト」、「総合的な探究の時間」および「教科」とのつながりを意識した、「地域素材」を利活用する授業を計画、実践していく。

②計画Ⅱについて：コンソーシアムを中心とした外部機関との連携

- ・外部機関との積極的な連携により生徒の学びの充実を図る（「まつうら高校応援団」とのさらなる協働の充実）。特に、研究活動や発表会における教員・地域人材、大学生等による伴走の在り方を検討する。
- ・中学校や大学との連携の中で、生徒の主体的な取組を促進し、特に中学校への生徒募集も含めた広報活動にもつなげていく。

③計画Ⅲについて：地域に根差した高等学校との連携

- ・他校と連携を進め、教員間の交流を進めるとともに、松浦での生徒間交流を活発に行う。次年度は12月26日に、猶興館、佐世保南、宇久、松浦との交流会を実施予定。これにより、生徒の主体的・対話的な学びの充実及びを図る。また、NPO法人カタリバ主催の小規模校サミットにも参加。
- ・外部コンテストや校外交流も積極的に行う。新たに、立命館宇治（WWL拠点校2019年～）探究発表会に参加予定 等。



松高キャラクター
「まっどリー」

まつナビ・プロジェクト

検索 CLICK!

長崎県立松浦高等学校

〒859-4501 松浦市志佐町浦免738-1



☎0956-72-0141 (事務室)

☎0956-72-0142 (職員室)

<https://www.news.ed.jp/matsuura-h/>